大宮公園グランドデザイン検討委員会
報告書

大宮公園グランドデザイン検討委員会

大宮公園グランドデザイン　委員長あいさつ

大宮公園は、１３０年を超える歴史のある公園です。1921（大正１０）年には本多静六、田村剛両博士による埼玉県氷川公園改良計画が示され、昭和に入り、この計画をもとに多くの施設が整備されました。開園後の明治・大正期には、埼玉県民のみならず、広く東京やその周辺から来園者を集めるとともに、多くの文人墨客にも愛され、大宮公園を舞台とした文芸作品が数多く残されました。園内には旅館や料亭があり、その収益が公園管理に還元されるなど、公園経営という点でも先導的な公園でした。

公園は本来、都市の課題解決や魅力づくりに貢献するポテンシャルを持っており、健康・教育・自然・文化・環境・福祉・レクリエーションなど、多様な市民ニーズに対応した使い方があってよい場所です。実際に、ニューヨークやポートランドなどでは、公園や広場などのパブリックスペースをうまく活用することにより、街ににぎわいが生まれている例もあり、都市において公園は大きな意味を持つものといえます。

しかし、これまでの日本の公園は、量的拡大や公平な利用等を重視する余り、質の向上や公園の活用が十分ではなかった側面があります。大宮公園についても、氷川の杜や見沼田んぼなどに象徴されるような、地域の自然、歴史、文化、伝統を引き継ぐ場としてのポテンシャルを有するものの、樹木が鬱蒼として薄暗い印象があったり、施設の老朽化が進んだり、あるいは、競技施設がひしめきあい回遊性が悪いなどの問題があります。一方で、2017（平成２９）年の都市公園法の改正では、魅力ある公園づくりのために民間の資金やノウハウを導入する仕組みが設けられるなど、新たな取組の可能性も広がっています。

大宮公園の自然、歴史、文化、伝統などのポテンシャルをいかに引き出し、未来に引き継いでいくか。周辺のまちづくりとも連携しながら、公園を核としたまちの魅力づくりを進め、「都市の公園」から、世界の人に愛される「公園都市」へといかに転換していくか。いわば、インバウンドも殺到するような世界に誇る日本の「名公園」を実現しなければならない。そのためには、社会の変化も見据えて公園の将来像を描き、その実現に向けた大局的な視点からの整備構想、すなわち、グランドデザインが必要です。

その策定作業には、多岐にわたる分野の技術や知識が求められます。今回、ランドスケープだけでなく、景観、芸術、スポーツ、メディア、神道、盆栽、観光、地域活性化、都市計画、歴史・文化など、各分野における第一線の専門家を委員にお招きし、また、地域の事情に精通した方々にも地元代表として参画いただきました。このグランドデザインは、委員と地元代表の皆様から頂戴した幅広い視点からの有意義な御意見をもとに、委員会として、将来像とその実現に向けた施策をお示ししたものです。

委員、地元代表の皆様方には、検討委員会の審議に主体的に御協力いただいたことに、厚く感謝申し上げます。また、委員会運営支援を担当した事務局関係者の皆様にも感謝いたします。

これから、公園管理者の埼玉県はもとより、地元さいたま市をはじめ、氷川神社や市民・企業・団体、公園利用者の皆様には、世界にはばたく輝かしい“ 大宮グランドパーク ”の実現に向けて、その主役は自分たちだとの自覚のもと、新生大宮公園づくりに積極的に参画していただきたく、心からお願い申し上げます。

平成３１年３月

大宮公園グランドデザイン検討委員会

委員長　　進士　五十八

目次

1.大宮公園グランドデザインのねらい …… 1
1.1 背景と目的……1
1.2 検討の対象範囲 ……2
2.大宮公園及び周辺地域の現状 …… 3
2.1 大宮公園の概要 ……3
2.2 地形特性 ……4
2.3 利用状況 ……5
2.4 大宮公園の歴史 ……7
2.5 大宮公園周辺の地域資源の状況 ……14
3.大宮公園をめぐる背景 …… 16
3.1 社会動向 ……16
3.2 主な関連計画 ……16
3.3 大宮公園へのニーズ ……23
3.4 大宮公園魅力アップ協議会からの意見 ……24
4. 大宮公園グランドデザインの検討にあたり考慮すべき事項 …… 26
4.1 ５つの要素（大宮公園の特性） ……26
4.2 ２つの視点と５つの方向性 ……32
5.大宮公園の将来像 …… 34
6.将来像の実現に向けた施策 …… 36
6.1 施策 ……36
6.2 施策の実施ステップ ……42
7.将来像のイメージ …… 43
7.1 将来像のイメージ ……43
7.2 将来像の実現ステップ ……46
7.3 ゾーンごとの施策 ……47
7.4 イメージスケッチ ……50

1. 大宮公園グランドデザインのねらい

1.1 背景と目的

1）背景

大宮公園は、1873（明治６）年の太政官布達を受け、1885（明治 18）年に開設された、埼玉県初の県営公園である。氷川神社の境内地の一部を国有化し、公園として開園して以来、130 年を超える歴史を有する。時代の要請に応えて整備・拡張が続けられ、行楽地や桜の名所、スポーツ・レクリエーションの拠点などの役割を果たしてきた。特に、1921（大正 10）年に、日本の「公園の父」と称される本多静六博士と、田村剛博士が策定した「埼玉県氷川公園改良計画」では、桜の植栽や公園の拡張、舟遊池、運動場等を整備する計画が提案され、公園の整備・拡張が進められた。現在においても、自然景観の保全や経済振興を図ろうとしたその理念と、公園の骨格が引き継がれている。

昭和期になって本格的な公園整備が進められ、野球場、陸上競技場兼双輪場等が建設された。戦後になると、プールや体育館、サッカー場などのスポーツ施設が整備されるとともに、第二公園、第三公園が整備され、現在は約 68ha が供用されている。現在、年間約 200 万人の来訪者を集め、本多静六博士が構想したスポーツの殿堂とアカマツや桜の公園として、広く県民に親しまれている。その一方、３つの運動施設が立ち並んでいることによる回遊性の阻害や、体育館や水泳競技場等の施設の老朽化、桜の木の衰弱、樹木が鬱蒼と茂ることによる開放感の低下など、様々な課題を抱え、その対応が求められている。

一方、社会が成熟化し、市民の価値観も多様化する中、新たな時代の都市公園には、その多機能性を最大限発揮し、都市の課題解決や魅力づくりに貢献していくことが求められている。都市公園制度の改正など公園緑地行政を取り巻く動向も変化する中、大宮公園は埼玉県を代表する公園として、新たな時代にふさわしい公園のあり方を先導していく役割が求められている。また、大宮駅を中心とした新たなまちづくりが進む中、それらの動きと一体となり、地域の魅力づくりに貢献していくことが求められている。

2）目的

以上の背景を踏まえ、本グランドデザインは、大宮公園の価値を将来に引き継いでいくため、公園のこれまでの歴史を振り返りつつ、県民の意見も踏まえ、長期的な視点から公園の目指すべき将来像や、土地利用の方向性を示すゾーニングを明らかにするとともに、公園の再整備に向けた基本的な考え方を示すことを目的とする。

なお、将来像の実現に向けた具体的な手法や施設計画、スケジュール等は、今後、それぞれの取組を進める中で検討していく。

1.2 検討の対象範囲

公園内の整備については、現在の都市計画で公園と定められた区域を検討の対象範囲とする。

また、まちづくりや周辺地域との連携を図る観点から、南北はさいたま新都心から大宮盆栽村、東西は見沼田んぼから大宮駅までの範囲も考慮する。

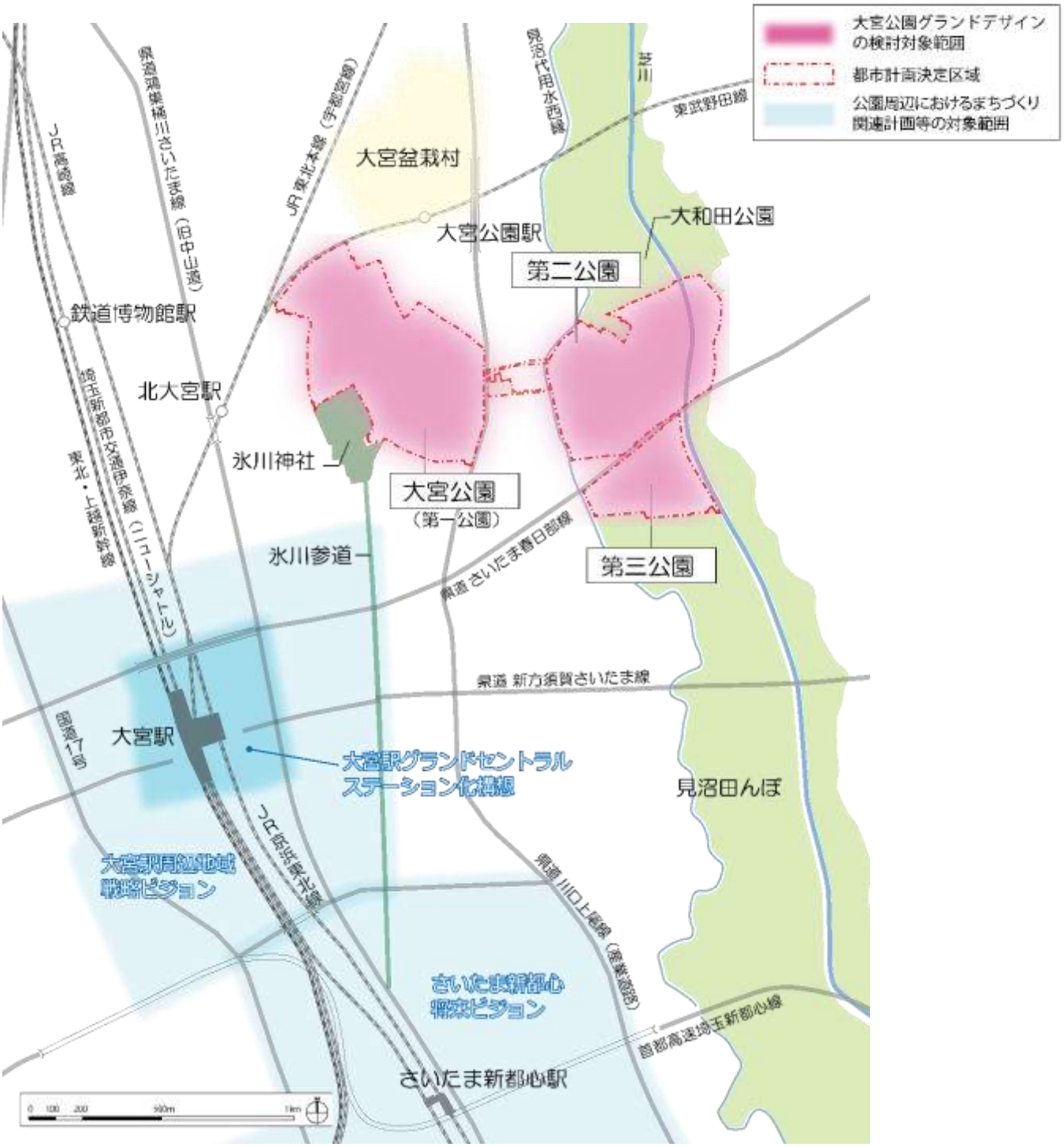


図 1-1 大宮公園グランドデザインの検討対象範囲

2. 大宮公園及び周辺地域の現状

2.1 大宮公園の概要

「大宮公園」は大宮駅から東北の方向へ約 1.5～2.0km に位置する。氷川神社に隣接する第一公園、第二公園及び第三公園からなる。大宮公園の都市計画決定区域は 73.4ha であり、現在の整備済み面積は、第一公園が 34.6ha、第二公園が 23.4ha、第三公園が 9.8ha の合計 67.8ha である。

第一公園には、氷川の鎮守の森や、アカマツとソメイヨシノなどが混在する樹林が広がる自由広場がある。また、サッカー場（NACK5 スタジアム大宮）、野球場、陸上競技場兼双輪場など競技施設が全体の面積の約 4 割を占めている。

第二公園には、多目的広場やひょうたん池（河川調節池）を中心とする広々とした広場や梅林、アジサイ園、菖蒲田など四季折々の花の観賞スポット、テニスコートや軟式野球場等の施設がある。

第三公園には、芝生広場やジョギングコースを有する広場園路があるほか、見沼田んぼの現風景を生かした湿地（みぬまの沼）や、池畔の野鳥観察小屋がある。

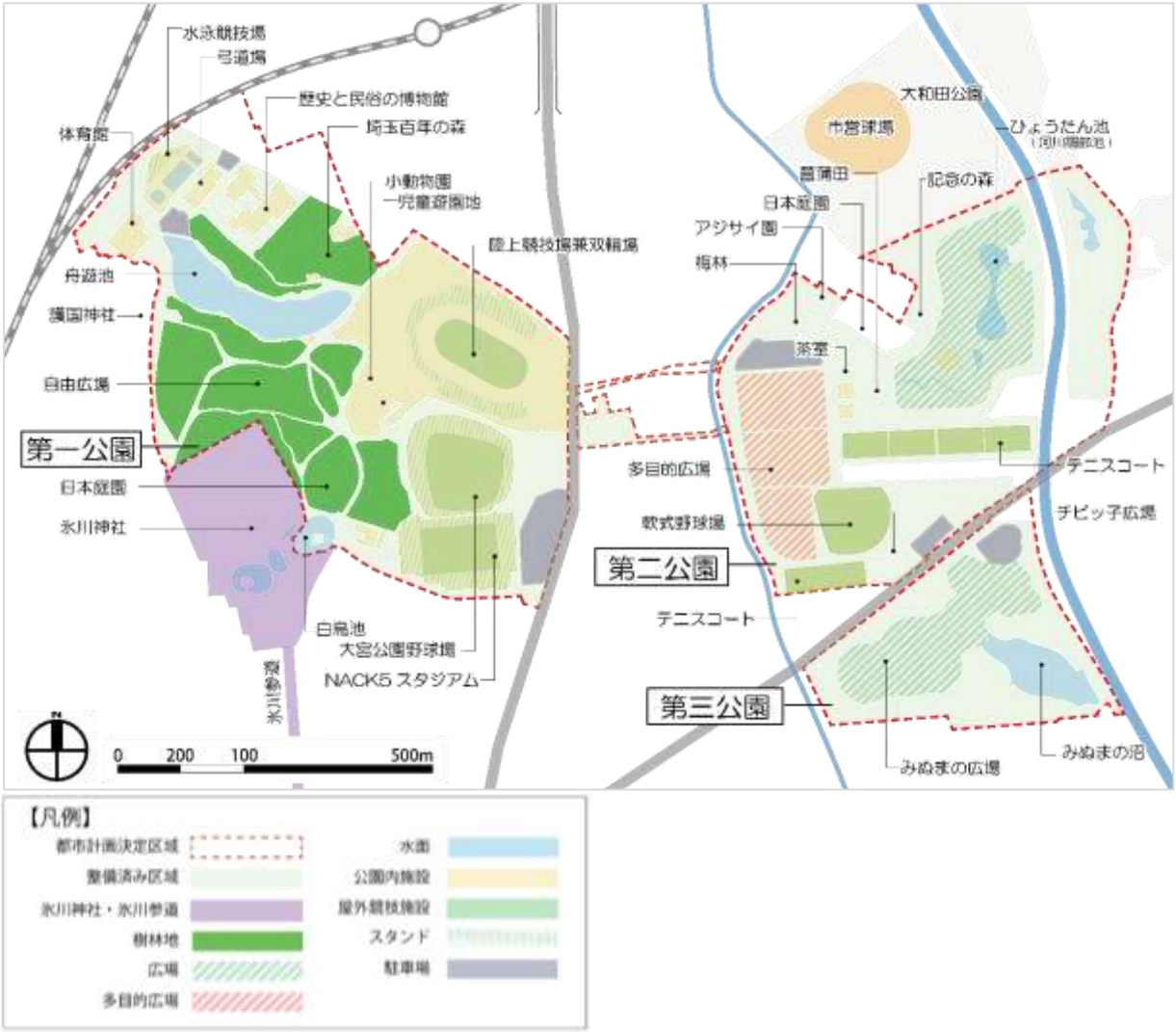


図 2-1 大宮公園の施設概要

2.2 地形特性

氷川神社及び大宮公園が位置する地域は、大宮台地上の鼻のように高く突き出た位置にあるため、一体の地名は「高鼻町」と呼ばれる。台地と平地の境界部では湧水がみられ、現在でも氷川神社の「蛇の池」などでは湧水が確認される。

大宮台地は、比較的海抜高度が高く起伏の少ない平坦面で、関東ローム層と呼ばれる火山灰土で覆われている。関東ローム層は、上部のローム土（赤土）と下部の凝灰質粘土に大別され、ローム土は、安定しており比較的大きな強度がある。

土地条件図によれば、大宮公園は段丘および切土地、埋立地に立地している。第二公園、第三公園は、見沼田んぼを埋め立て整備した経緯から、氾濫平野と埋立地からなる。

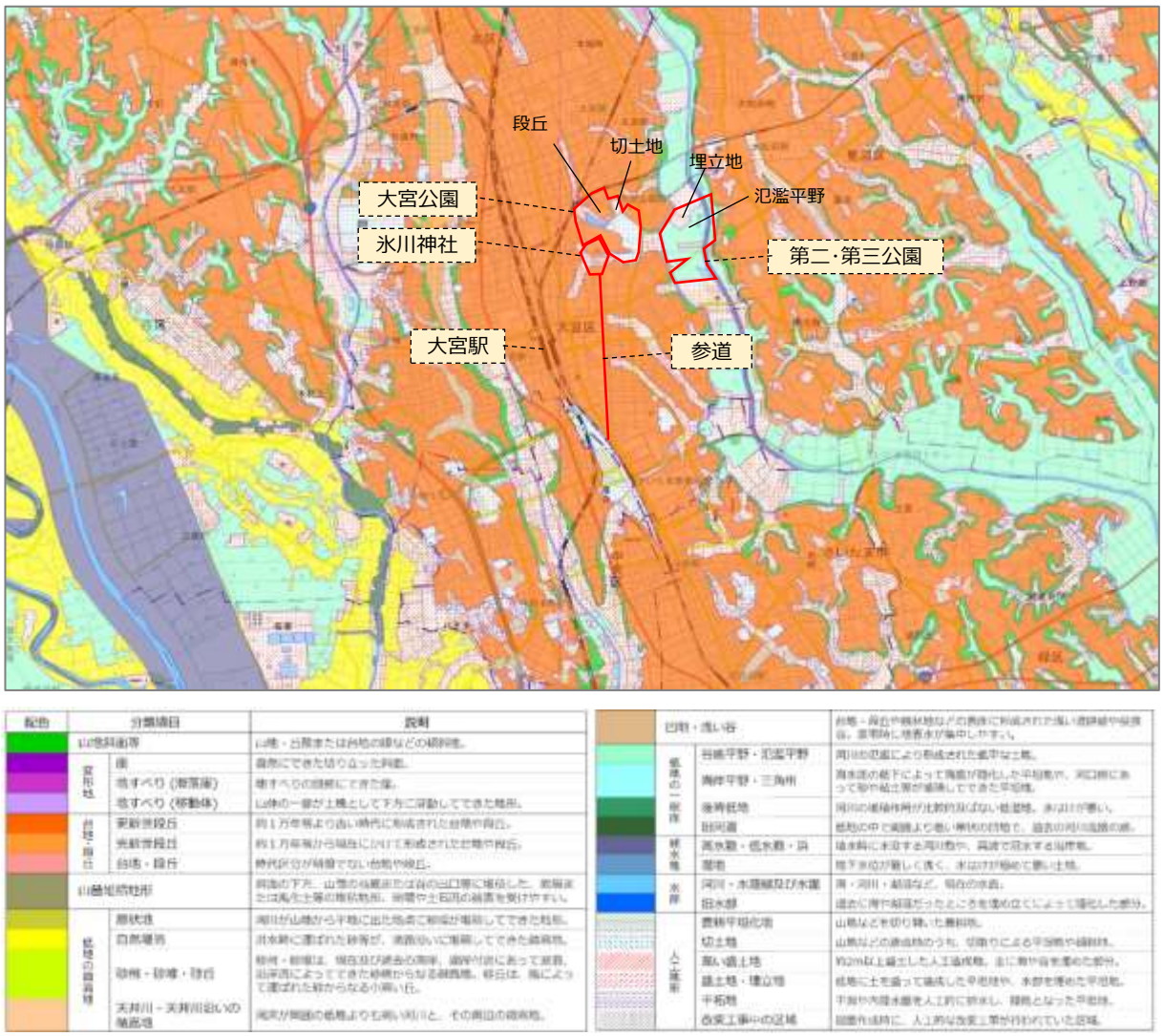


図 2-2 大宮公園周辺の土地条件
出典：国土地理院「数値地図 25000（土地条件）」（2011（平成 23）年調査）（加筆）

2.3 利用状況

1）利用者数

大宮公園全体の年間来園者数は約 200 万人（利用者数をカウントした施設、イベント時の合計）である。桜の花見の時期や梅まつりにはそれぞれ 10 万人以上が訪れている。施設ごとでは、双輪場や野球場、サッカー場（NACK5 スタジアム大宮）といったスポーツ施設に多くの観客が訪れているほか、小動物園や歴史と民俗の博物館等の施設において利用者数が多い。

表 2-1 主な施設や時期の利用者数（2016（平成 28）年度）

公園	施設		年間利用者数	稼動期間
第一公園	野球場		19.7 万人	4～11 月
	双輪場	競輪利用	41.4 万人	通年
		アマチュア等	0.4 万人	
	水泳場		1.3 万人	6～9 月
	体育館		2.6 万人	通年
	弓道場		2.5 万人	通年
	小動物園		29.9 万人	通年
	児童遊園地（飛行塔）		4. 0 万人	通年
	歴史と民俗の博物館		13.8 万人	通年
	サッカー場（NAC K 5 スタジアム大宮）	J リーグ	21.5 万人	-
		その他	6.1 万人	
	観桜期		13.3 万人	3～4 月
第二公園	テニスコート		11.9 万人	通年
	軟式野球場		1.2 万人	3～11 月
	梅まつり、陶器市		10.6 万人	2～3 月

出典：埼玉県公園スタジアム課・さいたま市都市公園課資料

2）利用形態

2017（平成 29）年１月～２月に実施された来園者アンケート調査の結果によると、年代による偏りはみられなかった。利用頻度については、よく利用する人（週に数回）が 31％いる一方、ほとんど利用しない（年に数回）人も 37％であった。利用目的については、「散歩」が最も多く６割以上を占め、「花や植物などの自然鑑賞」、「運動（ランニング等）」と続いた。

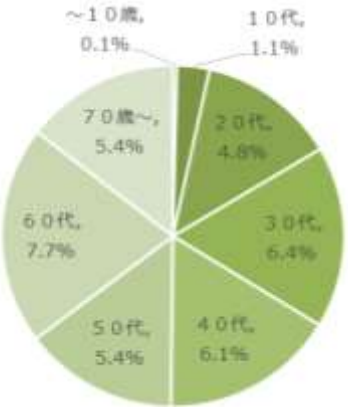


図 2-3 回答者の年代（n=704）

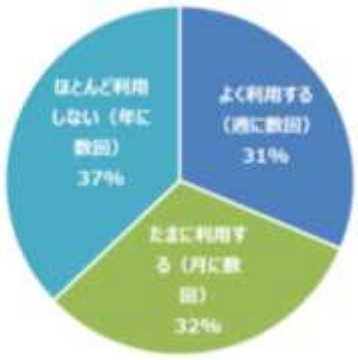


図 2-4 公園の利用頻度（n=704）

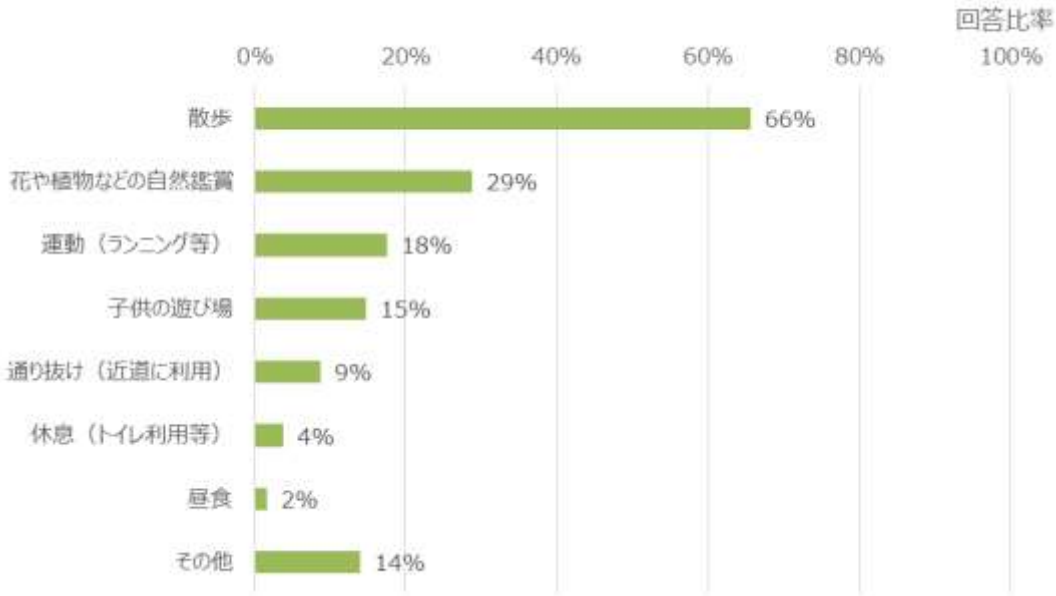


図 2-5 公園を利用する目的（n=704,回答複数）

<u>アンケート調査の実施概要</u>

【調査日】

・第一公園：2017（平成 29）年 1 月 7 日（土）、2 月 21 日（火）

・第二公園：2017（平成 29）年 2 月 26 日（日）、1 月 26 日（木）

【対象】

概ね 9:30、10:30、11:30、12:30、13:30、14:30 時点で公園に滞在していた来園者

【回答数】

704 件（男性 325 件、女性 379 件）

2.4 大宮公園の歴史

大宮公園は、1885（明治 18）年の開園以来、時代の要請に応え整備・拡張が行われ、現在に至る。その整備の変遷や主な出来事について以下に記す。

表 2-2 大宮公園の歴史年表

年号	主な出来事
明治 6 年	太政官布達第 16 号（公園候補地の選定）
明治 18 年	大宮公園開園（当時の名称は氷川公園）
	日本鉄道大宮駅開業
大正 10 年	本多静六、田村剛による埼玉県氷川公園改良計画
昭和 3 年	埼玉県氷川公園改良計画を受け、本格的に工事着手
昭和 8 年	児童遊園地開設
昭和 9 年	野球場完成
	日米親善野球（ベーブ・ルース、ルー・ゲーリッグらがホームランを放った記録が残る）
	埼玉県招魂社創祀（のちに埼玉縣護國神社へ改称）
昭和 10 年	舟遊池完成
昭和 15 年	陸上競技場兼双輪場完成
昭和 23 年	大宮公園に改称
昭和 24 年	第一回大宮競輪開催（東日本初）
昭和 25 年	児童遊園地に飛行塔設置（長岡市博覧会から移転）
昭和 27 年	プール完成、体育館完成
昭和 28 年	小動物園開園
昭和 30 年	弓道場完成
昭和 35 年	サッカー場完成
昭和 46 年	埼玉百年の森、県立博物館完成
昭和 47 年	新体育館完成
昭和 55 年	弓道場改築
	第二公園供用開始
昭和 58 年	プール改築
昭和 62 年	グリーンハーモニーさいたま'87（第 5 回全国都市緑化フェア）の開催（第二公園）
平成元年	日本の都市公園 100 選に選定
平成 2 年	さくらの名所 100 選に選定
平成 4 年	新野球場完成
平成 5 年	日本庭園完成（料亭石州楼跡）
平成 13 年	第三公園供用開始
平成 19 年	ＮＡＣＫ５スタジアム大宮完成

1)「氷川公園」開園以前【1868（明治元）年以前】

現在の第一公園は、氷川神社の境内地の一部が官営化されてできたものである。氷川神社は、2000 年以上の歴史を持つといわれている。現在の氷川神社及び第一公園が位置するあたりは元来、芝川の浸食によって生まれた見沼低地を望む台地の縁辺部にあたり、アカマツや萩、ススキをはじめとする原生林に覆われた土地であった。

また、現在の第二公園、第三公園が位置する場所には見沼と呼ばれる広大な湖沼があった。見沼はかつて、「神沼」や「御沼」とも呼ばれ、豊かな恵みを与える神聖な水をたたえた湖沼であった。見沼が氷川神社の成立に重要な位置を占めていると考えられている。

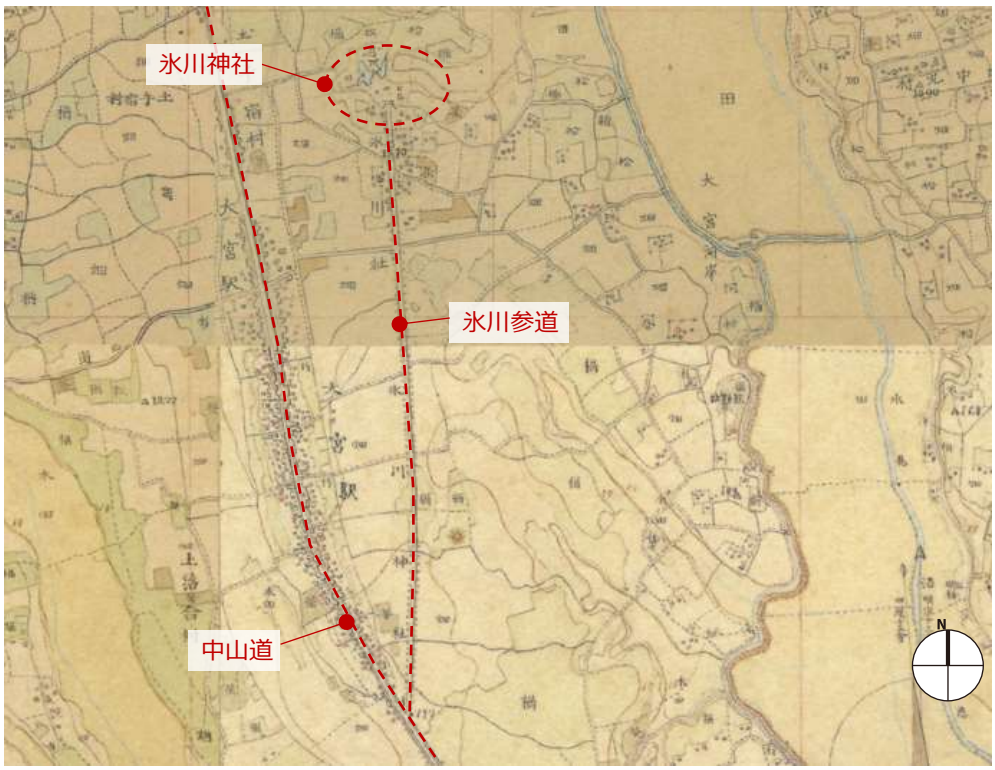


図 2-6 迅速測図（1880（明治 13）年～1886（明治 19）年）
出典：国土地理院ウェブサイト（加筆）

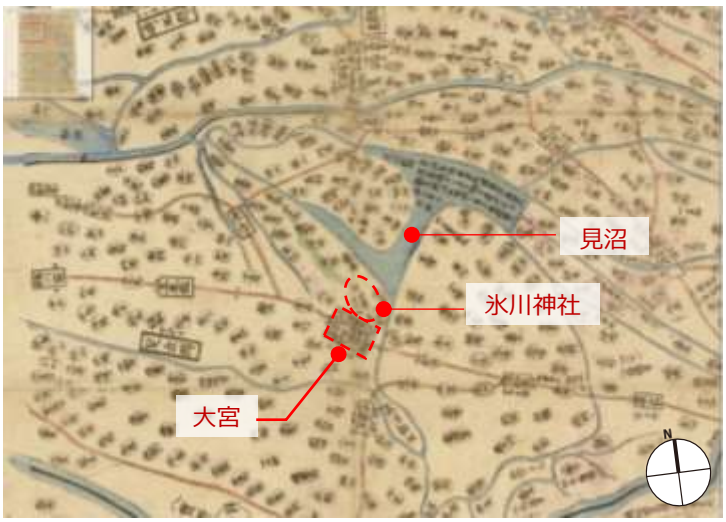


図 2-7 東都近郊圖（大宮周辺）（1844（弘化元）年）
出典：国際日本文化研究センター（加筆）

2）太政官布達公園「氷川公園」【1868（明治元）年～1904（明治 37）年】

江戸時代は門前町や宿場町として栄えてきた大宮町だが、明治政府の近代化政策により鉄道が整備される一方、上野～熊谷間の鉄道開通時には大宮に駅が設置されず、町の衰退が懸念された。そこで、大宮町の町勢振興を求める地元有志により、大宮駅の設置と氷川神社旧境内地の本格的な公園化が請願され、1884（明治 17）年に公園建設が許可された。庭園師佐々木可村によって設計が進められ（図 2-8）、翌年 1885（明治 18）年に開園した。

開園期の公園は、ハギやススキが茂り、マツや雑木林に覆われ、武蔵野の面影が色濃く残っていたといわれている。春は花見や蕨狩り、夏は見沼の蛍狩り、秋は松茸狩り、冬は雪見の絶景と、四季折々の楽しみがあり、熱海と並ぶ東京の奥座敷として人気を呼び、多くの文人墨客が訪れた。

当時の公園内は直線的な園路により地割がなされ、割烹旅館などが高台の見晴らしの良い場所に設置された。また、1899（明治 32）年の氷川公園図（図 2-9）からは、公園施設として広場やこしかけ（ベンチ）、ブランコなどの施設が点在していることがわかる。

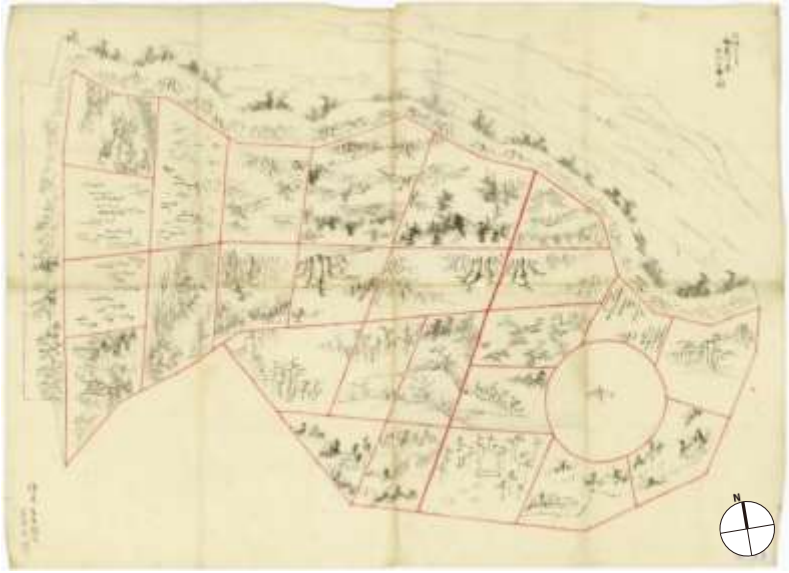


図 2-8 佐々木可村計画図（写）（作成年不詳）
出典：（公財）東京都公園協会 東京グリーンアーカイブス

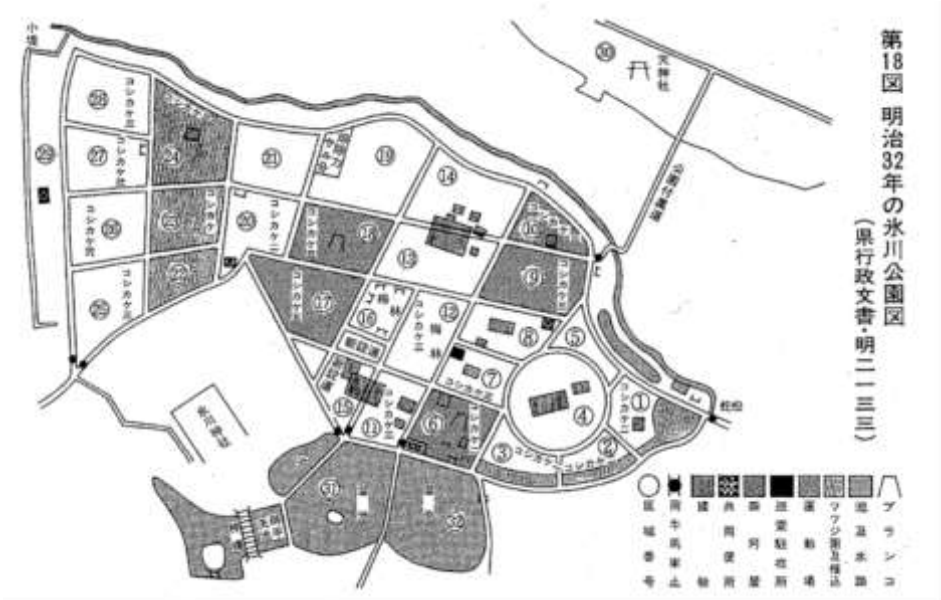


図 2-9 1899（明治 32）年の氷川公園図 出典：大宮市史

3）埼玉県氷川公園改良計画【1905（明治 38）年～1921（大正 10）年】

交通網の整備が進み、明治末期から昭和初期にかけて観光ブームが起こった。開園後 20 余年を経た大宮公園も来園者の増加と共に、休憩所や運動場の整備に対するニーズが高まった。

1921（大正 10）年、本多静六、田村剛によって「埼玉県氷川公園改良計画」が策定された。改良計画では、現在の地形に応じて計画し内外の風致を保存修復すること、遊園的な施設を整備し四季を通して遊覧客を誘致すること、そのために公園の面積を当時の約 4 倍に拡張することなどが示された。また、公園の地割や施設整備の方針、公園経営上の注意等が示され、大宮公園における土地利用の礎が定まると共に、官民連携による公園の管理運営や公園による経済振興など、現代にも通じる公園政策であった。

「埼玉県氷川公園改良計画」の概要

開園当初の台地上の公園区域を西側に拡張した第一期計画、北側の低地と台地を使う第二期計画、南側の低地と台地部分を使う第三期計画の 3 段階の拡張計画となっていた。氷川神社を取り囲む低地帯の地形を利用し、行楽地として確立されていた景色を阻害しないよう景観にも配慮がなされた。

第一期計画

公園内の主要部分にあった料亭を向山（現双輪場の北側）に移設し、跡地は大宮公園に遠足で訪れる子ども達が遊ぶ小運動場として計画すること。舟遊釣魚の池（現 舟遊池）、氷川神社社殿裏手の社叢林拡充などを計画していた。

第二期計画

第一期区域の北側の低地部分に大運動場を整備し、さらに北側の台地部分に野外劇場や料亭の移設地を計画した。

第三期計画

低地を利用した蓮池や花菖蒲池、台地部分には家畜園、動物舎、果実園などを計画した。

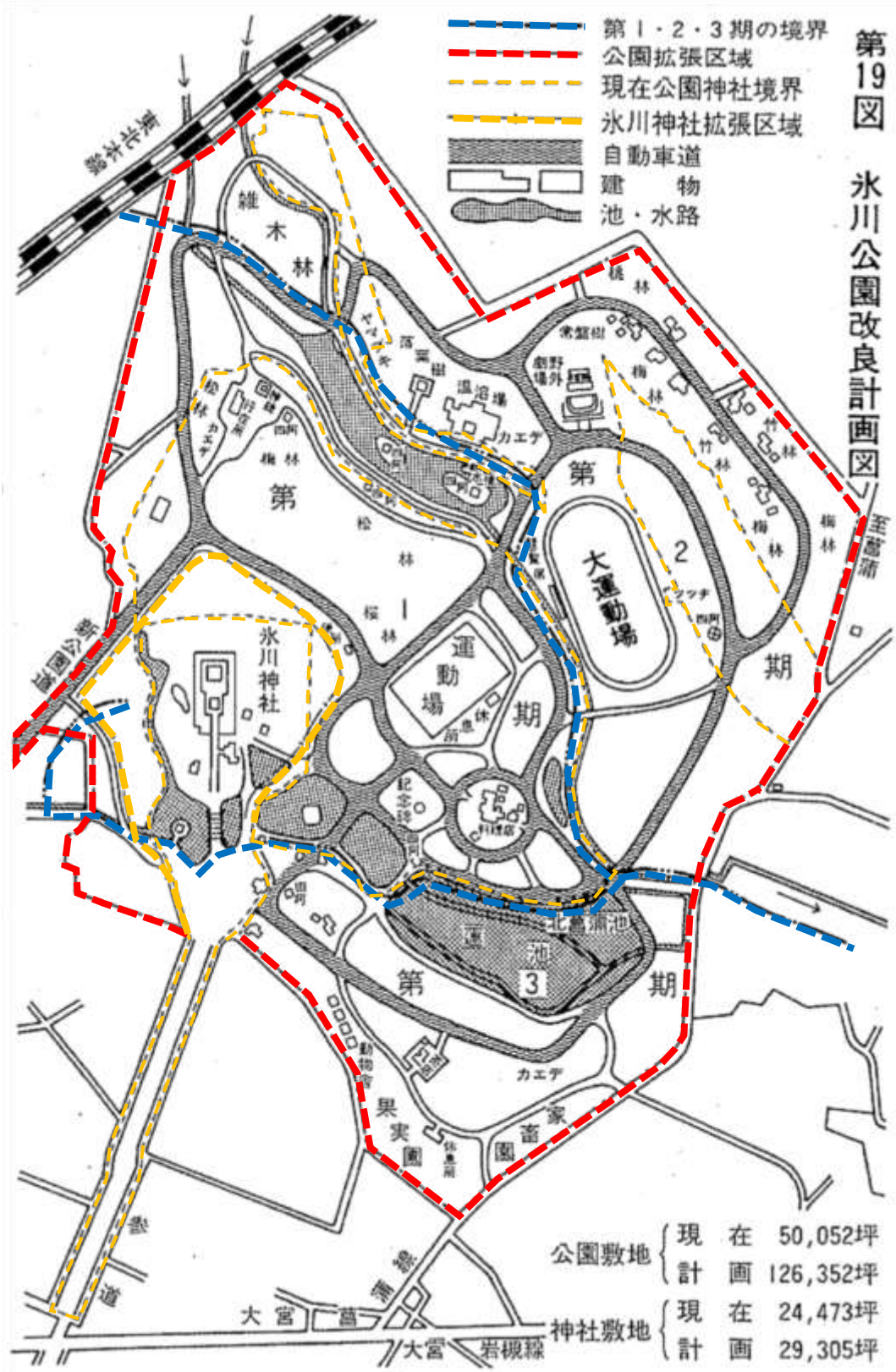


図 2-10「氷川公園改良計画図」
出典：大宮市史

4）戦前･戦後の大宮公園【1922（大正 11）年～1964（昭和 39）年】

本多静六博士らの改良計画を基に、関東一のスポーツの殿堂を目指して改良計画が推進された。1940（昭和 15）年に開催が予定されていた「幻の東京オリンピック」により、更に運動公園化への動きが強まり、陸上競技場や野球場の建設が進められた。建設にあたっては、一部台地を利用したほか、その他大部分は湿地や芦原であったことから、埋立工事が行われた。工事その他、舟遊池や庭球場、水泳場、遊戯園などが整備された。

終戦後は、高度経済成長、東京オリンピック（1964（昭和 39）年）の開催などを受け、スポーツ施設が拡充される時代を迎え 1960（昭和 35）年には東京オリンピックのサッカー競技会場として、スタンド等の施設を追加整備し、国内初のサッカー専用競技場が完成した。

1940（昭和 15）年頃に描かれたとみられる「大宮氷川公園鳥瞰図」からは、野球場、陸上競技場の西側の低地部を流れる水路や、公園の東側の見沼田んぼや水路の様子が確認できる。

図 2-11 大宮氷川公園鳥瞰図（1940（昭和 15）年頃とみられる）
出典：大宮公園事務所蔵

また、昭和 30 年代の大宮公園案内図（図 2-12）では、テニスコート、バレーコートやスポーツセンター、文化会館、郷土館なども見られ、周辺には盆栽町、寿能城跡が見られる。

図 2-12 昭和 30 年代前半の大宮公園案内図
出典：埼玉県公園スタジアム課資料

5）高度経済成長期以降の大宮公園【1965（昭和 40）年～】

高度経済成長期以降、大宮公園周辺は東京のベットタウンとして急激な市街化が進んだ。

また、1980（昭和 55）年頃からは、都市化の進行や営農環境の変化により、見沼田んぼの土地利用も大きく変わり始めた。首都近郊に残された数少ない大規模緑地空間として見沼田んぼを保全する動きが活発になり、見沼田んぼの公有地化推進事業が始まった。こうした中で、1980（昭和 55）年に第二公園が、2001（平成 13）年には第三公園が供用を開始した。

1990（平成２）年には「さくらの名所 100 選」に選定され、花見の時期には多くの観光客が訪れる一方で、第一公園内では桜の樹勢に衰退が見られ、大宮公園桜守ボランティアにより桜の保護の取組が進められている。

また、2007（平成 19）年には、サッカー場が NACK5 スタジアム大宮として改修された。

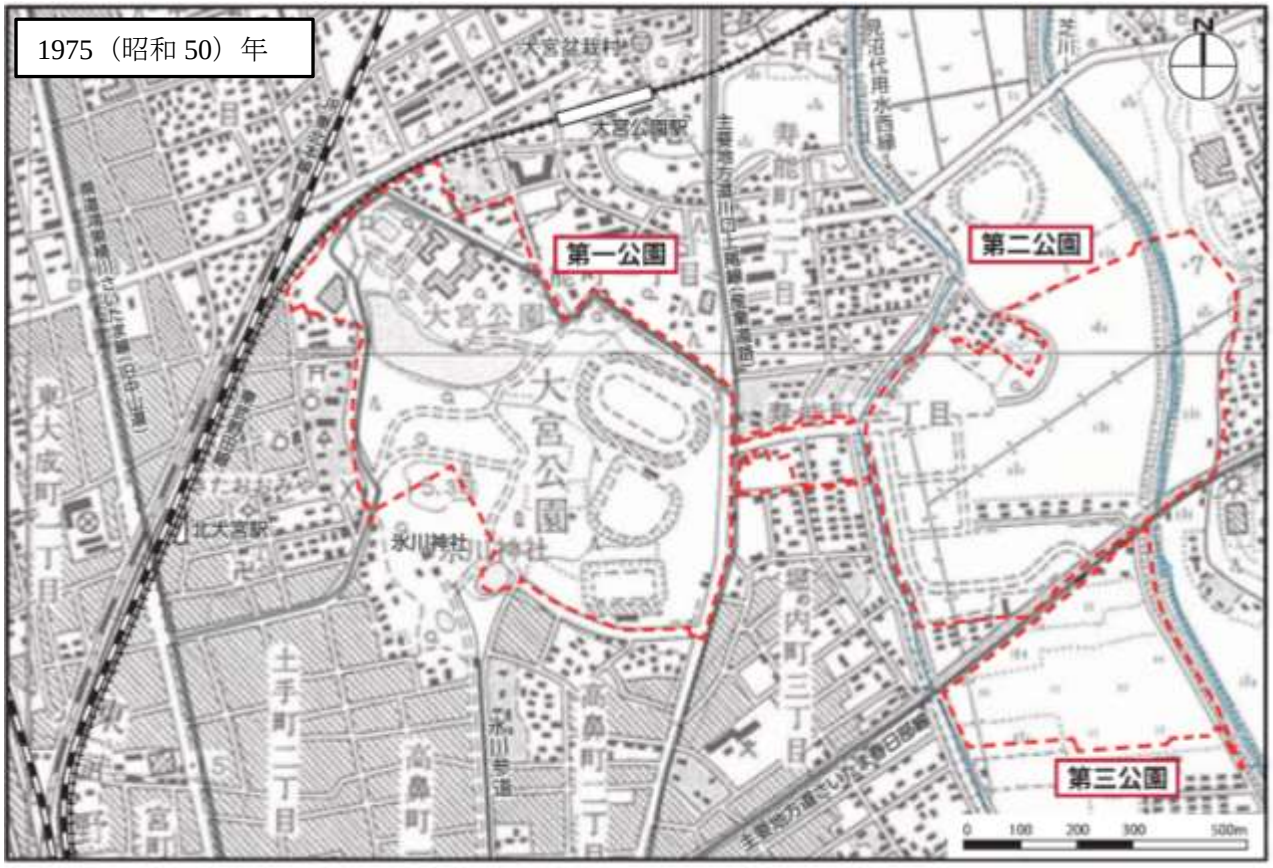


図 2-13 1975（昭和 50）年の大宮公園とその周辺
※1975（昭和 50）年の国土地理院地形図（S=1：25,000）に、現在の都市計画における公園の範囲を記入
※見沼田んぼで、宅地化がみられる

2.5 大宮公園周辺の地域資源の状況

大宮公園周辺に見られる多様な地域資源のうち、地域を特徴づける主要な資源について以下に概要を整理した。

<「東日本の玄関口」としての大宮駅>

大宮駅は東日本エリアへのハブ拠点であり、乗車人員数は 25.5 万人／日で全国 8 位である（2017（平成 29）年度統計：JR 東日本）。

関東 11 都県をめぐる広域観光ルートの重要な結節点にもなっている（広域観光周遊ルート形成計画：観光庁）。

2018（平成 30）年に策定された「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」に基づき、今後、大宮駅の駅前広場を中心とした交通基盤整備、駅前広場に隣接する街区のまちづくり、乗換改善等の駅機能の高度化など、「東日本の玄関口」としての地位確立に向けた取組が進められている。

<日本の歴史・文化を伝える観光資源>

大宮公園周辺には、約 2,000 年の歴史を有するとされる氷川神社、延長 2km の長さを誇る氷川参道、盆栽の聖地として国内外から多くの愛好家が訪れる大宮盆栽村、日本の鉄道史を伝える 41 両の実物車両が展示されている鉄道博物館といった観光資源が点在している。

埼玉県立歴史と民俗の博物館を中心とした半径 1 ㎞の範囲に９つの施設が位置することから「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」と称し、各施設が相互に連携し、地域活性化や情報発信力強化を図り、ルートマップ付ガイドブックの作成や、スタンプラリーの実施、地域の魅力を再発見する連続講座などが実施されている。

<大宮アルディージャによるまちのにぎわい>

大宮公園内の NACK5 スタジアム大宮は大宮アルディージャのホームスタジアムであり、年間 28 万人がサッカー観戦に訪れ、一定の経済効果をもたらしている。

また、大宮駅から NACK5 スタジアム大宮に向かう一の宮通りにおいては、歩きたくなる通りづくり、一体感とにぎわいのある商店街づくりなど、様々な団体、企業、行政の協働のもと、地域資源を生かした活動が行われている。

<祭典・イベント>

氷川神社では年中行事として、毎朝の日供祭、月毎の月次祭など、年間 60 以上の祭典が行われ、多くの参拝客が訪れる。

また、関東一円の氷川神社の総本社、武蔵一宮氷川神社の例祭とそれに合わせた「中山道まつり」、市民が主体となった「大宮フリーマーケット」など、地域のにぎわいづくりに向けたイベントが開催されている。

＜見沼田んぼ＞

見沼田んぼは、東京都心から 20～30km 圏内に位置し、約 1,260ha の広大な面積を持つ、首都近郊における貴重な緑地空間である。

見沼代用水の西縁・東縁には、総延長は 20km を超える「日本一」の桜回廊があり、花見やウォーキングなどの場として親しまれている。

また、市民が野菜づくりを楽しめる市民農園、収穫体験ができる県民ふれあい農園などがあり、都市部では貴重な「農」を体験できる場となっている。

この他、「見沼・さぎ山交流ひろば」をはじめとする公園でイベント等が開催され、交流やコミュニティづくりの場となっている。

3. 大宮公園をめぐる背景

3.1 社会動向

1) 公園緑地政策の動向

人口減少や少子高齢化、財政面の制約の深刻化などを背景として、都市全体が様々な課題に直面する中、新たな時代の都市公園には、その多機能性を最大限発揮し、都市の課題解決や魅力づくりに貢献していくことが求められている。

2016（平成 28）年５月に「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」が取りまとめた「新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について」によれば、新たなステージに向けた重点的な戦略として、「緑とオープンスペースによる都市のリノベーションの推進」、「より柔軟に都市公園を使いこなすためのプランニングとマネジメントの強化」、「民との効果的な連携のための仕組みの充実」が挙げられている。

また、2017（平成 29）年６月の都市公園法改正により、都市公園の再生・活性化に向けて、民間活力の導入など新たな都市公園の整備に関する制度が創設された。

さらに、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定等、今後もインバウンドの増加が見込まれることから、外国人観光客も含めた誰もが利用しやすい公園づくりが求められている。

2) 公園周辺のまちづくりの動向

大宮駅は、北陸新幹線や北海道新幹線の開業により、交通結節点としての存在感がますます高まっており、駅周辺では都市計画道路の整備や公共施設の再編、市街地再開発事業などを契機として、市民、行政、企業、教育・研究機関など多様な主体の連携によるまちづくりの機運が高まっている。

3.2 主な関連計画

関連計画においては、まちづくり、景観、環境、観光、防災など多くの分野において、豊かな緑やオープンスペースを有する大宮公園の果たす役割が期待されている。

1) 見沼田圃の保全･活用･創造の基本方針（H7）【埼玉県】

見沼田んぼについて、その保全・活用・創造を図るため、行政の果たすべき役割を明示するとともに、土地利用の基準を定めている。

2) 首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン（H16）【自然環境の総点検等に関する協議会】

首都圏の自然環境の整備にあたっては、「生物多様性保全の場提供機能」、「人と自然とのふれあいの場提供機能」、「良好な景観提供機能」、「都市環境負荷調節機能」、「防災機能」の５つの機能の効果が十分発揮されるような整備を目指すことと示されている。

自然環境が有する上記５つの機能の視点から、見沼田んぼは、首都圏に残されたまとまりのある貴重な自然環境（保全すべき自然環境）として位置づけられ、将来にわたって首都圏の水と緑のネットワークの中枢となることが求められている。

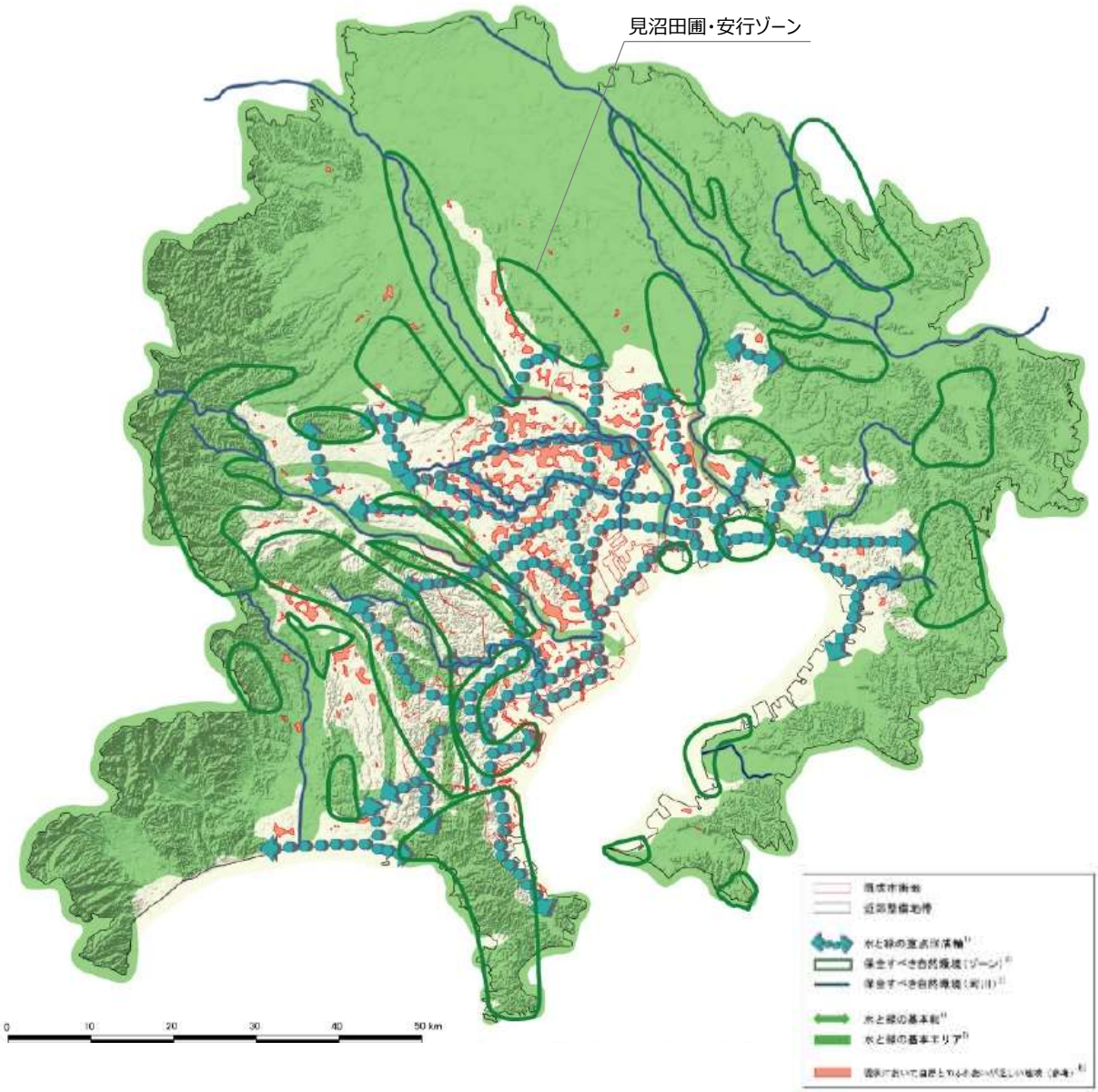


図 3-1 首都圏の都市環境インフラの将来像

出典：自然環境の総点検等に関する協議会 「首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン」（H16）に加筆

3) さいたま市緑の基本計画（H19）【さいたま市】

さいたま市の緑の将来像として「いのちきらめき 緑の風そよぐ 庭園都市・さいたま」が掲げられている。

大宮公園は、大宮盆栽村、氷川神社周辺とともに「緑のシンボル核」に位置づけられ、歴史・文化資源と新しい都市空間の様々な緑の融合や、さいたま市の顔となる緑の創出が求められている。

第二公園、第三公園は、さいたま市の緑の大きな骨格を形成し、首都圏の広域的な環境保全を担う「見沼田圃シンボル軸」の一部に位置づけられ、既存の公園緑地の一層の充実が求められている。

図 3-2 緑の将来像図

出典：さいたま市「さいたま市緑の基本計画改定版」（H26）

4) さいたま市都市景観形成基本計画（H19）【さいたま市】

さいたま市の都市景観形成の理念として「ひと　まち　みらい　輝く都市景観の創造」を掲げており、大宮区の景観づくりのテーマとして「氷川の杜の風格と調和するにぎわいの景観づくり」が位置づけられている。

特色を生かした都市景観の形成を目指す地区である景観拠点として、氷川神社、氷川参道一体は「歴史文化景観拠点」に位置づけられ、「氷川神社、氷川参道のみどりと歴史文化資源を守り、生かす景観づくり」が求められている。

本市の景観の骨格を形成し、連続性のある線的な都市景観の形成を目指す区域である景観軸として「見沼田圃景観軸」が位置づけられており、「見沼田圃の広がりを守り、生かす景観づくり」が求められている。

図 3-3 都市景観形成方針図

出典：さいたま市「さいたま市都市景観形成基本計画」（H18）

5) 大宮駅周辺地域戦略ビジョン（H22）【さいたま市】

将来像として、「東日本の顔となるまち」「おもてなし、あふれるまち」「氷川の杜、継ぐまち」を掲げており、「氷川の杜、継ぐまち」の実現に向け、氷川の杜や見沼田んぼの生態系の保全・回復が求められている。

氷川参道や大宮公園、見沼田んぼなどの資源と連携し、その魅力や価値を享受した地域文化を継承しつつ、新たなライフスタイルを創造することで、豊かな都市生活を営める地域の形成が求められている。

大宮駅周辺のまちづくり方針として、街の顔の創出と都市観光を推進するシンボル都市軸として、氷川参道歴史文化軸（盆栽村～氷川神社・大宮公園～氷川参道～一の鳥居～けやきひろば）を位置づけており、参道に象徴される歴史や文化を次世代に継承するため、沿道環境の保全と適切な空間活用を図ることが求められている。

6) さいたま市見沼田圃基本計画（H23）【さいたま市】

見沼田んぼづくりにおける共通の理念となるテーマとして、「農・自然・歴史とふれあう、憩いのふるさと“みぬま”」が掲げられている。

大宮公園エリアにおいて、重点的に取り組むべき施策として、「屋外レクリエーション利用に対応するオープンスペースとして機能の一層の充実を図る」ことが求められている。

第二公園、第三公園は、防災機能の充実や、斜面林、芝川、公園等の連続性の確保が求められている。

大宮公園全体として、環境整備により生態系を拡大する方針が示されている。

7) さいたま市総合振興計画（H26）【さいたま市】

さいたま市の将来都市構造において、水と緑のネットワークの骨格として、さいたま新都心から氷川参道、大宮公園、大宮盆栽村を経て、見沼田んぼに至る緑の回廊の形成が求められている。

大宮区の将来像として「うるおいのある高度な生活基盤と氷川の緑と文化が調和するまち」が位置づけられ、「氷川の杜の緑や見沼田圃の自然など地域固有の資源を活用した個性ある地域文化の創造と発信」、「氷川の杜や見沼田圃の自然の保全・憩いの場としての活用」などが求められている。

8) さいたま市都市計画マスタープラン（H17 策定、H26 改定）【さいたま市】

大宮駅周辺から氷川参道、氷川神社、大宮盆栽村及びセントラルパーク構想の地域を「みどりのシンボル核」として位置づけており、歴史文化資源と新しい都市空間の緑の融合を図ることが求められている。

「みどりのシンボル核」では、みどりの拠点を結ぶ回遊ルートの整備や一体的な緑化の推進により、さいたま市を代表し、魅力を創出するみどり空間の形成が求められている。

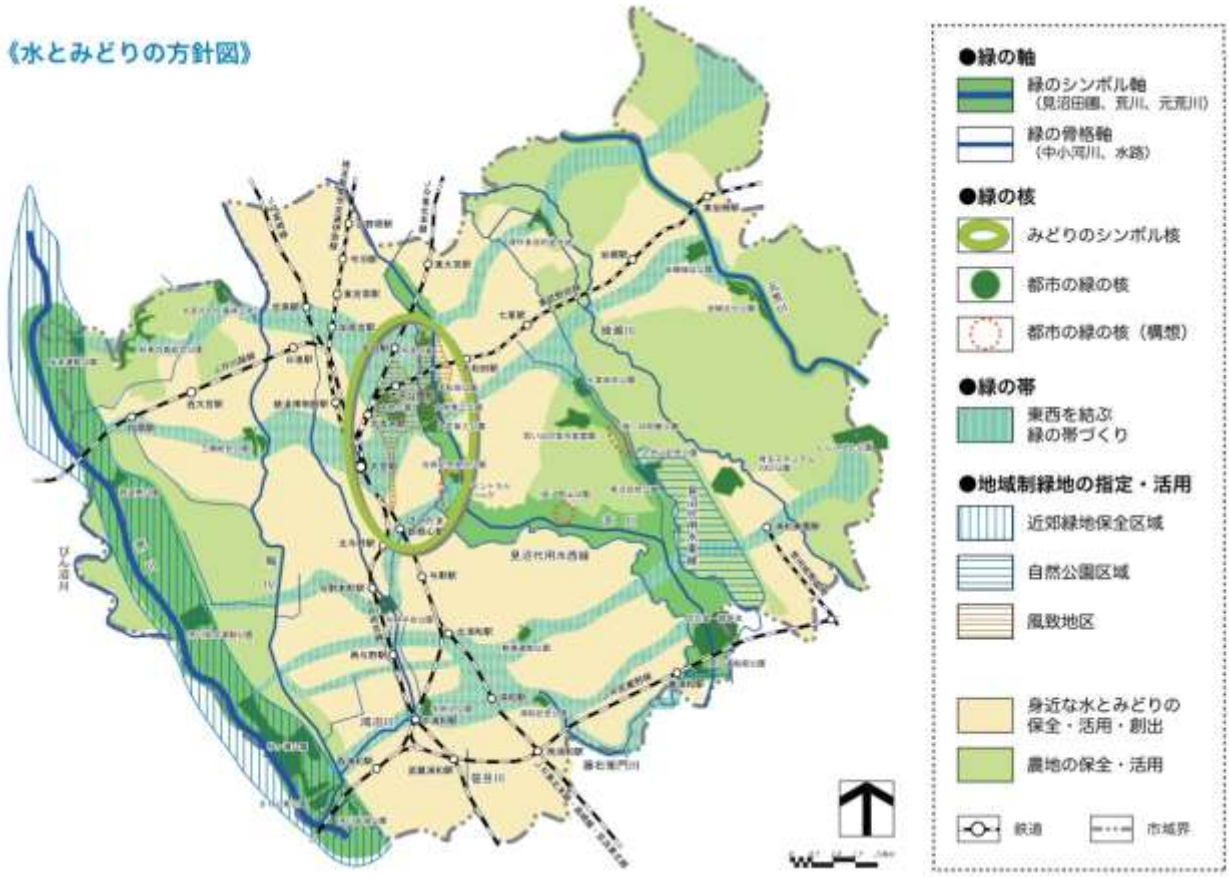


図 3-4 水とみどりの方針図

出典：さいたま市「さいたま市都市計画マスタープラン」（H26）

9) さいたま市観光振興ビジョン（H19 策定、H26 改定）【さいたま市】

さいたま市の観光の課題として「観光資源の連携」が挙げられ、市内での滞留時間を延ばし、経済効果につなげていくためにも、観光資源の連携を図り、回遊性を促進することが重要とされている。

また、連携させることで相乗効果が期待できる資源として、大宮盆栽村、大宮盆栽美術館、漫画会館、武蔵一宮氷川神社、大宮公園、歴史と民俗の博物館などが示されている。

10) 首都圏広域地方計画（H28）【国土交通省】

大宮は、東日本からの多種多様なヒト、モノが実際に集結して交流する東の玄関口となる交通結節点として、連携・交流機能の集積・強化を図るとともに、首都直下地震の発災時における首都圏のバックアップ拠点としての強化を図ることが位置づけられている。

11) 大宮駅グランドセントラルステーション化構想（H30）【さいたま市】

大宮駅周辺の都市機能の考え方として、「東日本の対流拠点に相応しく、氷川の杜、見沼田んぼ等の豊かな自然環境が感じられ、風格と品格を備えた景観形成」が位置づけられている。

また、歩行者ネットワークの考え方として、「大宮駅を起点とした氷川神社等、駅周辺の地域資源へのアクセス性の向上を図るとともに、開発街区等に創出される人の賑わいをまち全体に波及させ、多くの人々がまちを便利で快適に回遊できる環境を整えるための東西を結ぶ新たな東西軸の整備」「大宮区役所やさいたま新都心、氷川参道等へのアクセスを見据えた東口の歩行者ネットワークの主動線として、大宮の個性を生かした性格の異なる２つの軸の形成」が位置づけられている。

3.3 大宮公園へのニーズ

1) 利用者からのニーズ

2017（平成 29）年１月～２月に実施された来園者アンケート調査（実施概要は P.2-4 を参照）から、利用者のニーズ等について整理した結果を以下に示す。

＜公園に欲しいもの＞

公園に欲しいものとして、「このままでよい」が最も多く、次いでカフェ（飲食店等）やコンビニなどの売店を求める声がみられた。

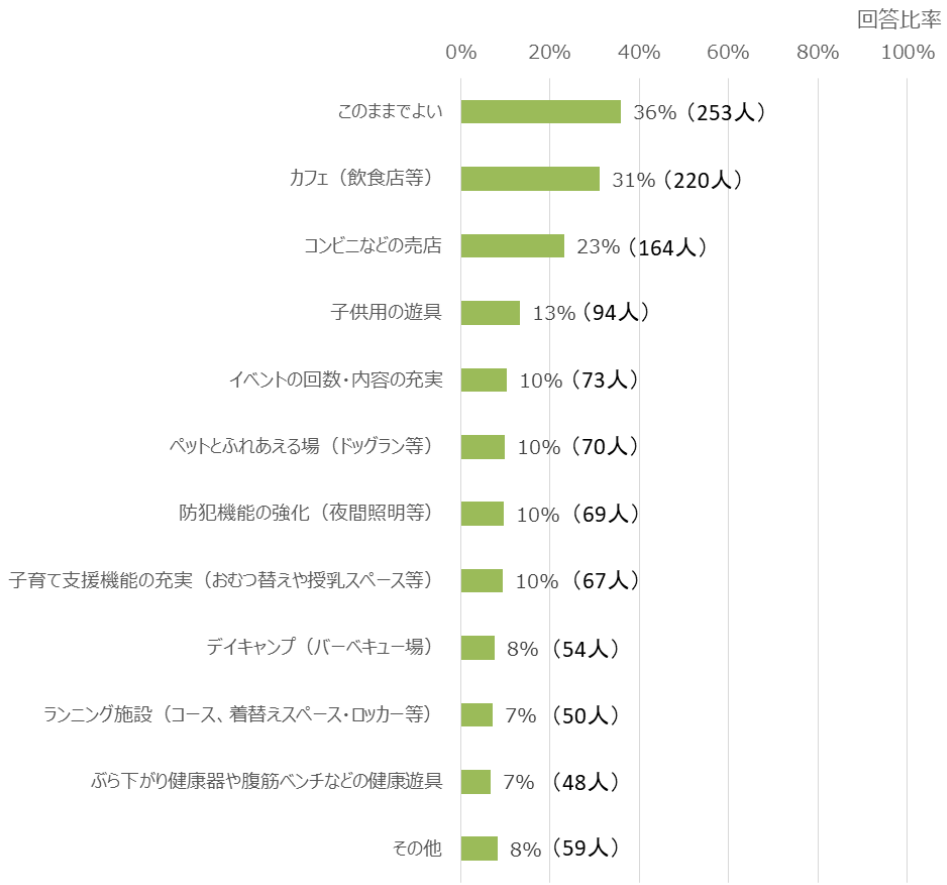


図 3-5 公園に欲しいもの （複数回答可） n＝704

＜これからの大宮公園に期待すること・改善してほしいこと＞

これからの大宮公園に期待することや改善してほしいことについて、自由回答を求めたところ、トイレや駐車場の改善を求める声が比較的多かった。また、現状の自然環境を維持してほしいとする意見も多いが、カラスへの対策やペットとともに遊べる環境づくりを求める声もあった。

また、公園内の施設や設備に対して、トイレや駐車場、駐輪場、園路・道路の改善、園内の案内サインの充実、ごみ箱の設置等を求める声が比較的多かった。

3.4 大宮公園魅力アップ協議会からの意見

大宮公園魅力アップ協議会は、大宮公園を行政、関係団体、県民とのパートナーシップによりさらに魅力ある公園とするために意見交換を行う場であり、大宮公園に関連する主体によって構成される協議会である。今後の大宮公園について、協議会から出された意見を以下に整理した。

1) 今後も生かしていくべき点・残していくべき点

■緑地・空間

- 桜の老木への対応や計画的な樹木管理（間伐や植替え）
- 赤松や桜がつくる日本的景観の継承
- 赤松を生かした環境教育と PR

■歴史・文化

- 「氷川公園」から続く歴史や、明治・大正期のリゾート地であり多くの文豪に愛された歴史
- 歴史を感じとれる施設は大切に残した、今まで培われた日本的景観の継承
- 前川國男氏が設計した建築物と公園との調和

■水系

- 桜と水面のコントラストが映える他の都市公園にはない貴重な風景
- 舟遊池のボートの復活と水質改善

■スポーツ・レクリエーション

- 小動物園の教育の場等としての活用
- サッカー専用スタジアム（NACK5 スタジアム大宮）、大宮公園野球場等のスポーツ施設の機能の維持
- 駐車場の整備

■にぎわい・交流

- 周辺施設と一体となったデザインや動線の連続性の確保
- 周辺の観光資源も含めた、エリア内回遊性向上
- 公園内の案内板の整備

2) 不満な点や改善すべき点

■緑地・空間

- 遊歩道のぬかるみの改善
- 樹木の管理による暗い・汚いイメージの改善
- カラスへの対策

■水系

- 舟遊池の散策路の老朽化した柵の更新

■スポーツ・レクリエーション

- スポーツ関連施設の再生計画

・第一公園における、プロも使用するスポーツエリアと家族が楽しむレクリエーションエリアの混在
・サッカー場や野球場の改良
・競輪場のあり方

■にぎわい・交流
・老朽化し、一般の人が入りにくい雰囲気となっている売店から、老若男女がくつろげる、時代のニーズに合ったカフェ等への転換
・公園内における回遊・滞留がなく、次回訪問の際の他施設へのリピートにつながっていない
・公園内及び周辺施設の回遊性の不足。相互連携による魅力アップ
・大宮公園全体でのイベントの実施
・イベント時の駐車場や、観光バス等の発着乗降が可能なスペース及び駐車スペースの不足
・大宮公園のイメージや特徴が弱い

■その他
・園内を走り抜ける自転車が危険なため、歩行者動線と自転車動線の分離

3) その他のアイディア

■大宮公園の整備の方向性について
・大宮公園整備の方向性を明確化した上での既存施設の適切なリニューアル

■スポーツ公園としての方向性
・一般県民向けのジョギングコースの整備
・公園全体の案内板、開催イベントの案内

■施設の整備・更新による集客力のアップ
・大宮公園の魅力を感じられる場所にオープンカフェ等の休憩所の整備
・誘客施設として割烹や旅館の復活
・常設の野外イベント会場の整備

■イベントや PR による集客力のアップ
・ドックランの開設や定期的なフリーマーケットの開催
・映画やドラマ、CM 撮影の誘致やフィルムコミッションの設立
・公園管理手法の転換や自主事業の展開により捻出した事業費でのイベントの企画や誘致活動

■防災機能の強化
・第三公園の災害時の避難場所、復旧拠点としての役割を担う設備の充実

4. 大宮公園グランドデザインの検討にあたり考慮すべき事項

4.1 ５つの要素（大宮公園の特性）

大宮公園の特性として、「緑地・空間」、「歴史・文化・芸術」、「水系」、「スポーツ・レクリエーション」、「にぎわい・交流」の５つの要素を整理した。

1）緑地・空間

＜広域的な環境を支えるみどり＞

- 大宮公園は 68ha の広大なオープンスペースであり、氷川神社とともに中心市街地の中の貴重なみどりとして、ヒートアイランド現象の緩和や都市環境の改善に貢献している。
- 見沼田んぼは首都近郊に残された数少ない大規模緑地空間であり、遊水地としての機能を果たし、広域・都市レベルの骨格を形成している。

＜生き物の生息・生育空間＞

- 公園内には樹林地や草地、湿地など多様な環境があり、都市の生物多様性を支える重要な役割を果たしている。
- 2016（平成 28）年度の「さいたまみんなの生きもの調査」によると、公園内ではカイツブリやカモ類のほか、埼玉県レッドリストカテゴリーで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されているオオタカが確認されているなど、多様な生き物の生息・生育空間として貴重な役割を果たしている。

＜地域のアイデンティティを育む景観形成＞

- 公園内には、氷川神社と一体となった社叢林や樹齢 100 年を超えるアカマツ林、約 1,000 本のサクラの疎林、梅林など、風格のある景観が形成されている。
- 大宮区民の投票によって選ばれた「大宮二十景」では、ハナミズキの並木道など大宮公園及び氷川神社に関連する資源が７箇所選定され、大宮区民が愛着を感じるスポットとなっている。

＜安全な暮らしを支える空間＞

- 大宮公園は、さいたま市の広域避難場所（大地震等により発生した火災が延焼拡大した場合、その輻射熱や煙から生命・身体を守るために避難する場所）に指定されており、災害時に危険から身を守る上での重要な役割を担っている。
- 公園内の調節池は、芝川の洪水抑制を目的とする調節池を兼ねて整備されたもので、市民の安全な暮らしに役立つとともに、大宮公園内で唯一釣りができる場所として季節を問わず愛好者が訪れる場となっている。

2）歴史･文化･芸術

＜見沼の歴史＞

- 見沼はかつて、「神沼」「御沼」とも呼ばれており、豊かな恵みを与え、神聖な水をたたえていた池沼であった。江戸時代には水田として開かれ、食糧増産を支える貴重な農業生産の場となってきた。見沼代用水は、江戸時代に見沼田んぼが開かれた際に、見沼田んぼの縁の台地に沿って掘削された水路であり、農業用水の供給の役割を果たしていた。
- 都市化の進行や米の生産調整、農業の後継者不足等から見沼田んぼの土地利用は大きく変わり始めた一方で、大規模緑地空間として保全する動きが始まった。現在の第二公園、第三公園は見沼田んぼの公有地化事業の中で生まれた公園であり、広域的な環境を支える資源として重要な役割を果たしている。
- 寛永年間に、徳川家光公が見沼での鷹狩りを行った際、寵愛の鷹が行方知らずとなり、氷川神社へ祈願したところ、たちまちこの松に下り、家光公の掌に戻ったといういわれのある蛇松（鷹止の松）の跡地がある。

＜氷川神社の歴史＞

- 大宮公園はかつての氷川神社境内地に開設され、現在に至る。氷川神社群の総本社であり、約 1,200 年前の聖武天皇の時代に武蔵国一の宮として定められたとされている。また、大いなる宮居としての大宮の地名の由来ともなる国内屈指の古社である。氷川という名は「水」に由来するといわれ、大宮台地端部の湧水が信仰の対象であったと考えられている。
- 現在も、氷川神社の社叢林の一部であったことが感じられる静かな空間がみられる。

＜行楽地としての歴史＞

- 開園期の大宮公園は、熱海と並ぶ東京の奥座敷として人気を呼び、春の桜や蕨狩り、夏の蛍狩り、秋の松茸狩り、冬の雪見の絶景など四季折々の風流が楽しめる行楽地として、多くの行楽客でにぎわった。
- 公園開設当初に建設された休憩施設「含翠楼（がんすいろう）」は、公園の管理機能を有するほか、茶の湯や歌の会、宴会場としても利用されていた。
- 現動物園から遊園地にかけての一帯には、高級料亭「万松楼（ばんしょうろう）」があった。また、明治期から昭和初期まで公園内に存在した料亭「石州楼（せきしゅうろう）」の庭園に植えられていた紅色唐子咲きの「大唐子」は、現在も日本庭園に当時のままの姿で保存され現在に至っている。
- 大正十年に開業した遊園地ホテルは、西洋風の外観の建物で、敷地内には牡丹園も整備され人気を集めていた。現在も、その門柱が残されており、その面影を伝えている。

＜文学･芸術＞

- 大宮公園には様々な文学者が訪れ、作品の舞台や絵画に公園を取り上げている。
- 明治期には正岡子規、永井荷風、森鴎外、正宗白鳥など著名な文豪が大宮公園をそれぞれの作品の中で紹介している。大正時代には、寺田寅彦や田山花袋が随筆などで大宮公園に触れている。昭和に入ってからも、高浜虚子を中心とする俳句結社「ホトトギス」派が吟行会の場として選んでいる。また、昭和初期には松林の景観が版画として描かれている。
- 公園内にある「埼玉県立歴史と民俗の博物館」（旧埼玉県立博物館、1971（昭和 46）年 10 月竣工）は、建築家・故前川國男氏による設計であり、日本芸術院賞、毎日芸術賞など数々の賞を受賞し、旧建設省による公共建築百選にも選定されている。

図 4-1 大宮公園の歴史資源

出典：大宮公園事務所資料を元に作成

図 4-2 大宮遊園地ホテル

（撮影日：不詳）

出典：大宮公園思い出の写真集

図 4-3 大宮氷川公園

川瀬巴水　版画

出典：大宮公園と文学者たち

図 4-4 含翠楼

（撮影日：不詳）

出典：大宮公園思い出の写真集

3）水系

＜湧水がつくり出した池＞

- 大宮公園（第一公園）は、大宮台地の縁辺部にあたり、芝川の氾濫平野である見沼低地に向かって標高が低くなっている。台地から低地に移り変わる場所には湧水がみられ、大宮公園のエントランス部分にある白鳥池やかつてボート遊びが行われていた舟遊池、氷川神社にあり神が宿る池とされる神池、蛇の池、御神水は、いずれも湧水に由来するものである。

＜見沼につながる池沼＞

- 第二公園には、芝川の洪水の調節池を兼ねて整備されたひょうたん池が、第三公園には、見沼の湿地を再現した「みぬまの沼」などがある。

4）スポーツ･レクリエーション

＜歴史ある競技施設群＞

- 昭和の初期から、競技施設が建設され、多様なスポーツが盛んに行われてきた。
- 1934（昭和９）年に完成した野球場では、こけら落としとして日米親善野球が開催され、ベーブ・ルースやルー・ゲーリッグらがホームランを放ったなどの記録が残っている。
- サッカー場は、1960（昭和 35）年、当時、日本初のサッカー専用競技場として完成した。1964（昭和 39）年東京オリンピックでのサッカー競技会場として使用された。その後、さいたま市管理となり、2007（平成 19）年に改修工事が竣工し、ＮＡＣＫ５スタジアム大宮として今に至る。
- 双輪場兼陸上競技場は、1940 年東京オリンピックに向けて、陸上と自転車競技の総合運動施設として整備に着手された。オリンピックは中止されたが、1939（昭和 14）年に双輪場が、その翌年に陸上競技場が完成した。1949（昭和 24）年には東日本初の競輪が開催された。
- 現在は、Ｊリーグ、プロ野球、高校野球、競輪などのスポーツ観戦に多くの人が訪れ、埼玉県の競技スポーツの拠点となっている。
- テニスコートは小学生から実業団まで一般へ広く貸出しをしており、稼働率が高い。また、軟式野球場や体育館等についても一般に貸し出しており、一般市民のスポーツの場となっている。

＜健康づくり＞

- 大宮公園は、周辺の芝川や見沼田んぼなどを含めたウォーキングコースの一部として、各種ウォーキングマップ等で紹介されており、散歩やサイクリング等の場として、県民の健康づくりに役立っている。
- 2012（平成 24）年度からは、見沼田んぼの自然環境や地域資源を広く紹介するとともに、自然に親しみ、豊かな心と身体の健康づくりを目指すウォーキングイベント「さいたマーチ」が開催され、大宮公園や氷川神社周辺もウォーキングのコースとなっている。
- 大宮公園では、青空ヨガ・キッズヨガなどのヨガ教室や、スポーツフェスタなどが開催され、健康づくりやスポーツ文化の発信拠点としての役割を果たしている。

＜レクリエーション＞

- 第三公園の「みぬまの広場」のような芝生広場でのピクニック、水鳥や野鳥の観察、遊園地、小動物園など、幅広い世代が楽しめる多種多様なレクリエーション・学びの場となっている。
- 第二公園、第三公園では、竹とんぼやリース作りなどの自然工作体験、七夕飾り、夏の虫観察会、ひまわり種まき大作戦など親子で楽しめる様々なイベントが開催され、花とみどりを楽しみ、体験する文化の発信拠点となっている。
- NPO 法人の活動により、「大宮プレーパーク」（冒険遊び場）が開かれ、子どもたちが自由に遊べる場が提供されている。

5）にぎわい･交流

<氷川神社>

- 大宮公園に隣接する武蔵一宮氷川神社には、正月三が日で 200 万人を超える参拝客が訪れるほか、例祭や大湯祭（十日市）、茅の輪くぐり、薪能などの神事や行事の際には多くの参拝者でにぎわう。

<スポーツ>

- NACK5 スタジアム大宮は大宮アルディージャのホームスタジアムであり、ホームゲーム開催時には多くのファン、サポーターがスタジアムに集う。また、全国高校サッカー選手権大会の全国大会、埼玉県予選などの会場としても用いられている。

<季節の花の観賞･イベント>

- 第一公園の自由広場や見沼代用水沿い、芝川沿いなど桜のみどころがあり、花見の時期を中心に多くの人が訪れる。「桜の名所 100 選」に選定されている。
- 第二公園では、白加賀・八重寒紅梅を中心に、約 40 品種 500 本の梅林がある。毎年 2 月には、梅祭りが開催され、開催期間中は陶器市やお茶会など様々なイベントも同時開催され、にぎわいをみせている。
- 他にも、第二公園のアジサイや菖蒲などは、一年を通して花々の鑑賞を楽しむことができる。

4.2 ２つの視点と５つの方向性

1）視点

大宮公園グランドデザインにおいて重視すべき視点を以下に示す。

●大宮公園のポテンシャルを最大限に生かす

氷川の杜や見沼田んぼなど地域の自然、歴史、文化、伝統など、大宮公園ならではの魅力や、緑地・オープンスペースの多機能性を、市民や企業などとの連携のもと、これまで以上に発揮していく。

●新たな時代の要請に応えていく

社会が成熟化し、市民の価値観も多様化する中、魅力あるライフスタイルの実現や、個性と活力ある都市づくりの実現など、新たな時代の要請に応えていく。

2）方向性

大宮公園の特性及び周辺計画との関係、大宮公園へのニーズや社会動向を踏まえ、グランドデザイン検討にあたり考慮すべき方向性を以下に示す。

●氷川の杜や見沼田んぼなどの自然や景観、歴史の継承

大宮公園には、氷川神社と一体となって風格を醸し出す社叢林、桜やアカマツの疎林、見沼田んぼに連続する景観といった、歴史的な風景が残されている。

一方、樹木が老齢化している、公園内が鬱蒼として薄暗いイメージがある、池の水質が劣化しているなど、問題も生じている。

氷川の杜や見沼田んぼなど地域の自然や歴史、伝統を保全し、後世に引き継いでいくことが求められる。

●みどりの機能とオープンスペースの確保

大宮公園は、市街化の進んだ都市における貴重な緑地であり、ヒートアイランド現象の緩和や生態系保全など、環境面において重要な役割を果たしている。また、災害時における避難場所や復旧の拠点となるなど、防災面で果たすべき役割も大きい。

また、現在の大宮公園は、第一公園、第二公園及び第三公園と区分されているが、新たな大宮公園はこれらを一体的に捉え、公園間のネットワークを強化することで、オープンスペースとしての機能をさらに高めていくことが求められている。

●魅力ある公園文化の創造

大宮公園では古くから競技施設が建設され、多様なスポーツが盛んに行われてきた。スポーツをめぐるニーズやトレンドが変化する中、今後も時代の要請に応えるスポーツの場として、広くスポーツ文化を発信していくことが求められる。

また、かつての大宮公園には料亭や旅館があり、多くの文人墨客が訪れ、風流を楽しむなど、文化や芸術が育まれる場であった。近年、施設の老朽化や魅力低下など様々な課題がある中、民間活力の導入など新しい手法も取り入れ、魅力ある公園文化を創造・発信し、地域住民や来園者のライフスタイル実現の舞台となることが求められる。さらに、日本を訪れる外国人観光客が増加する中、外国人観光客にも魅力を感じてもらえる公園づくりが求められている。

●持続可能な公園運営のしくみづくり

超少子高齢化社会に突入し、公共事業の予算や人員の確保も厳しくなる中、行政のみでの公園管理には限界がある。

こうした中、民との連携によるパークマネジメントの推進や、多様な主体が公園運営に関わるしくみをつくることにより、持続可能な公園運営を行う必要がある。

●公園を核とした地域のにぎわいづくり

大宮公園は、東日本の玄関口たる大宮駅にほど近く、一方で周辺には閑静な住宅街も広がっている。また、大宮公園周辺には魅力的な観光資源が点在している。

このような地理的条件を踏まえ、エリアマネジメント導入など地域との連携による公園の魅力アップ、大宮駅からの回遊性向上によるまちの魅力アップ、さらには、周辺の観光資源との連携による地域の魅力アップを図り、大宮地区のにぎわいづくりに資することが求められる。

5. 大宮公園の将来像

大宮公園の特性や背景を踏まえ、大宮公園の将来像を以下のように示す。

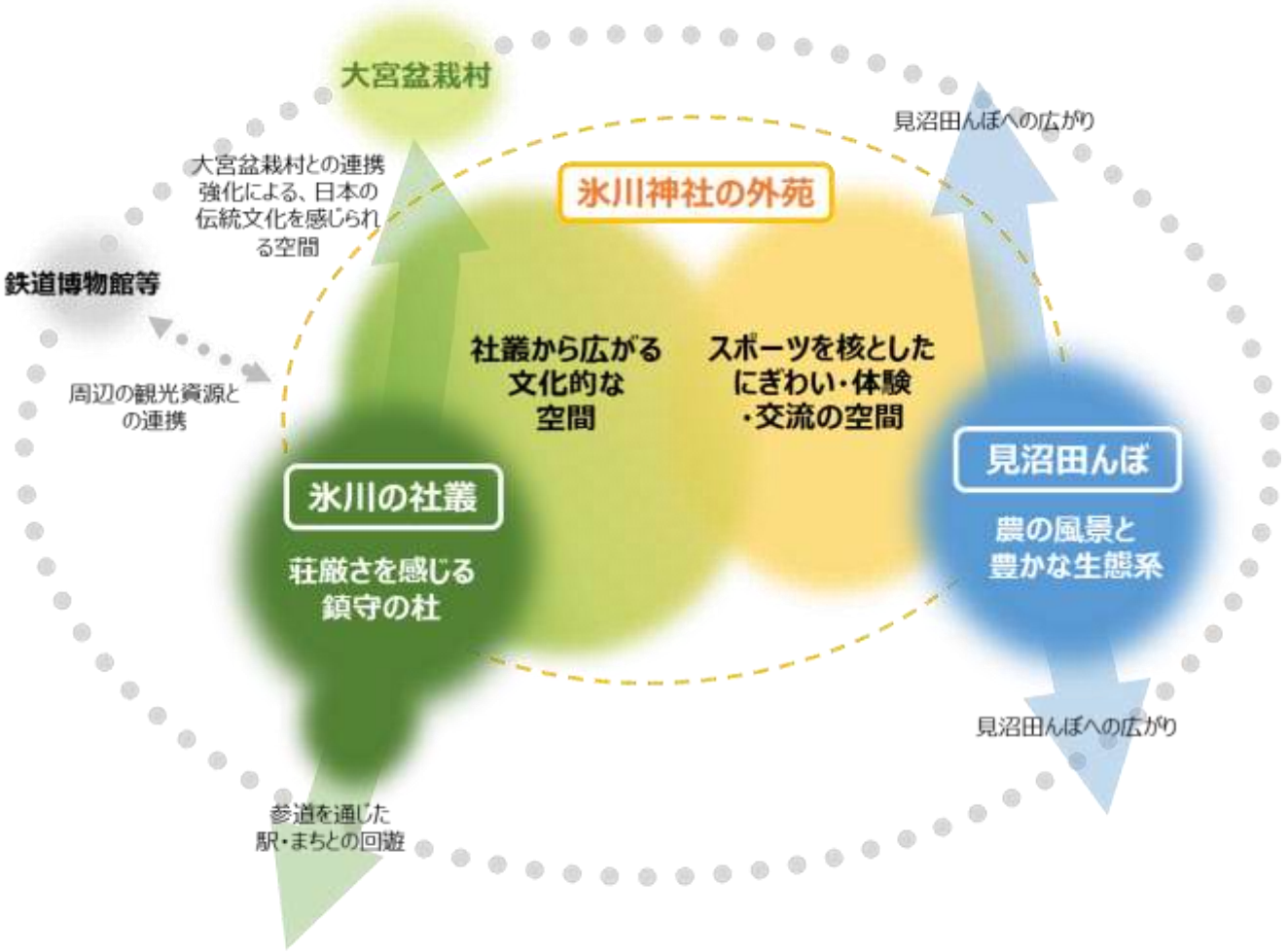
みんなでつくり育てる、氷川の杜から広がる

”大宮グランドパーク”

～都市の公園から 世界の人に愛される公園都市へ～

＜将来像のイメージ＞

- 地域の緑のシンボル「氷川の杜」と「見沼田んぼ」が引き継がれるとともに、氷川神社の荘厳さや武蔵野の雑木林の面影、見沼の原風景など、地域の歴史が感じられる魅力的な公園として、国内外から多くの人が訪れている。
- 大宮の中心部に残された貴重なオープンスペースとして、多様な機能が最大限発揮され、住民の快適で安全・安心な暮らしに役立っている。
- スポーツをはじめとして、文化・芸術活動、美しい景観の中での休養、自然とのふれあい、環境学習、農体験などの舞台となり、埼玉県全体の公園の魅力アップのけん引役として、魅力ある公園文化を発信している。また、近隣住民をはじめとする多くの人々が、暮らしの中に大宮公園を取り入れて、大宮公園があるライフスタイルを楽しんでいる。
- “大宮グランドパーク”のブランドイメージが確立されるとともに、多くの人が大宮公園に愛着を感じ、行政のみならず県民や民間事業者など多様な主体による公園運営が実践され、公園の魅力がさらに高まっている。
- 公園はまちに開かれた場となり、周辺の観光資源との連携や回遊性の向上により、公園を核としたまちのにぎわいや交流が生まれている。また、大宮公園の存在が、まちの魅力となっている。



氷川の社叢から広がる自然や歴史・伝統の継承

荘厳さを感じる氷川の社叢から広がる自然の空間や、自然を背景として育まれた歴史や伝統を継承する。

スポーツを核とした新たな公園文化の創造・発信

スポーツをはじめとして、文化・芸術活動、美しい景観の中での休養、自然とのふれあい、環境学習、農体験などの舞台となり、新たな公園文化を創造・発信する。

見沼田んぼの農の風景と生態系の保全・活用

首都圏に残された貴重な緑地空間である見沼田んぼの農の風景と生態系を保全するとともに、子どもたちが生きものにふれあい、環境について学べる場としての活用を進める。

図 5-1 大宮公園の将来像

6. 将来像の実現に向けた施策

6.1 施策

6.1.1 氷川の杜や見沼田んぼなどの自然や景観・歴史の継承

1）風格ある氷川の杜の保全・育成

氷川神社の社叢林から広がる樹林地の保全・育成を図り、歴史ある氷川の杜としてふさわしい、荘厳な雰囲気を醸し出す空間を形成する。

＜主な取組＞

- □　氷川神社の社叢林と一体となった景観づくり
- □　適切な維持管理による樹林の保全・育成
- □　氷川の杜の風格と調和するデザインによる公園施設整備

2）桜の再生、保全・育成

地域に愛され、多くの人が花見を楽しむ桜の名所としての空間の再生を進める。また、桜守ボランティア等との協働による維持管理や計画的な樹木の更新により、桜の名所を次世代へと継承する。

＜主な取組＞

- □　適切な密度管理による見通し・明るさの確保
- □　老齢木の計画的な間伐・植え替え
- □　適切な維持管理による桜の保全・育成

3）アカマツ林の保全・育成

現在の大宮公園を象徴するアカマツの古木の保全・育成を進めるとともに、開園当初に文人墨客が風流を楽しんだ歴史が感じられる樹林を次世代へ継承する。

＜主な取組＞

- □　適切な維持管理によるアカマツの保全・育成

4）見沼田んぼに広がる空間づくり

見沼田んぼの原風景を生かしつつ、周辺の公園や河川との景観の調和、連続性を確保することで、大宮公園から見沼田んぼへ広がる空間づくりを進める。

＜主な取組＞

- □　見沼田んぼの広がりが感じられる空間づくり

6.1.2 みどりの機能とオープンスペースの確保

1）氷川の杜と見沼田んぼをつなぐ生態系ネットワークの充実

大宮台地から芝川へ流れる水系を再生するとともに、公園内の緑の連続性を確保し、大宮公園とその周辺を含めた生態系ネットワークの充実を図る。

＜主な取組＞

□　氷川の杜と見沼田んぼを結ぶ空間づくり

2）生物多様性に配慮した公園づくり

大宮の中心部における貴重な生き物の生息・生育空間として、生物多様性に配慮した公園づくりを進める。

＜主な取組＞

□　生き物の生息に配慮した園地整備

3）親水空間の整備

大宮台地と芝川の氾濫平野からなる原地形を生かし、せせらぎや淀みなど水の流れを再生する。また、舟遊池や白鳥池など園内の池の水質改善を図り、親水性の高い空間を再生する。

＜主な取組＞

□　池の水質改善

□　水に触れ、親しむことのできる空間づくり

□　せせらぎなど水の流れの再生

4）四季折々の表情が楽しめる空間づくり

一年を通して変化する日本の美しい景観を楽しめる空間づくりを進める。

＜主な取組＞

□　季節を彩る樹木や花の植栽による景観づくり

□　開園期の武蔵野の雑木林の復元

5）防災機能の強化

大宮の中心部における広域避難場所としての機能強化を図る。また、芝川の洪水に対する、調節池としての機能を維持し、平時からの防災教育プログラムの実施に活用する。

＜主な取組＞

□　防災機能を有する施設の整備（屋根付き広場、大型休憩舎等）

□　河川調節池を活用した防災教育プログラム

6.1.3 魅力ある公園文化の創造

1）時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり

新たな時代のニーズに応じたスポーツの場づくりを進める。スポーツ・レクリエーションプログラムやイベント等を通して、スポーツ・健康づくりの場としての魅力づくり・機能強化を図る。

＜主な取組＞

- □　多様な活動に対応できるスポーツの場づくり
- □　民間の資金やノウハウを活用した運動施設の整備・運営
- □　スポーツ・レクリエーションプログラムの実施

2）魅力的な景観づくり

古くから親しまれてきた舟遊池を生かした景観づくり、前川國男氏設計の建築物と調和のとれた空間づくり、効果的な照明施設の配置による夜の景観の魅力アップ等により、魅力的な景観を創造する。

＜主な取組＞

- □　舟遊池を生かした景観づくり
- □　博物館周辺の景観づくり
- □　視点場の確保

3）おもてなし機能の充実

国内外からの来訪者を迎え入れ、多くの人に楽しんでもらえる公園づくりに向けて、おもてなしの空間づくりや様々なプログラムの提供を行う。

＜主な取組＞

- □　エントランス機能の充実
- □　公園の歴史を来園者に伝えるミュージアムの設置
- □　外国人向けの日本文化体験プログラムの提供

4）サービス拠点の整備・運営

大宮公園の美しい風景を生かした、交流やにぎわいを創出する飲食施設や宿泊施設等を民間のノウハウや資金も活用して整備し、サービスの充実を図る。

＜主な取組＞

- □　民間の資金やノウハウを活用した便益施設の整備（飲食施設、宿泊施設等）

5）世界に誇る文化･アートの発信

周辺の文化施設や大宮駅に近接する立地を生かして、次世代の芸術家が文化・芸術を発信する舞台としての活用や、国際的なアートイベント等の誘致を行う。

＜主な取組＞

- □　文化・アートのイベントの開催
- □　文化・アートの発信拠点となる教養施設の整備

6）一日を通じて公園を楽しめるしくみづくり

日中だけでなく、朝や夕方、夜間においても、公園の魅力を余すことなく楽しめるしくみをつくる。

＜主な取組＞

- □　ライトアップ等による夜の景観の魅力アップ
- □　夜を楽しむイベントの開催
- □　公園の朝を楽しめるプログラムの実施

7）誰もが安心して安全に楽しめる公園づくり

ユニバーサルデザインの推進や多言語に対応したサイン整備等により、誰もが安心・安全に楽しめる公園づくりを進める。

＜主な取組＞

- □　ユニバーサルデザインの推進
- □　多言語に対応したガイドシステムやサインの整備
- □　誰もが利用しやすい安心で清潔なトイレの整備
- □　子どもが生き生きと遊び学べる場づくり

6.1.4 持続可能な公園運営のしくみづくり

1）プロモーションの推進

交通施設等における PR 活動や、SNS 等を活用した見どころ情報の発信等を行うとともに、公園のブランドイメージづくりについても取り組む。

＜主な取組＞

- □ 駅・空港等における公園の PR
- □ SNS 等を活用した四季のみどころ紹介やタイムリーな情報発信
- □ 民間と連携した大宮公園ならではの土産物などの商品づくり

2）民との連携によるパークマネジメントの推進

民間のノウハウや資金を活用し、公園利用者へのサービス向上等、大宮公園の魅力づくり、管理運営を行うパークマネジメントを推進する。

＜主な取組＞

- □ 民間の資金やノウハウを活用した公園施設の整備
- □ 民との連携によるパークマネジメント手法の検討・導入
- □ アダプトプログラム等の導入
- □ 地域の企画・提案によるイベント等公園プログラムの運営
- □ 多様な資金調達手法の検討・導入

6.1.5 公園を核とした地域のにぎわいづくり

1）公園を核としたエリアマネジメントの推進

南はさいたま新都心、北は大宮盆栽村周辺までを含む地域におけるにぎわいづくりや魅力の向上に向けて、大宮駅周辺のまちづくりや見沼田んぼの再生・活性化等と連携を図りながら、大宮公園を核とした地域一体となったエリアマネジメントを展開する。

＜主な取組＞

- □ 大宮公園周辺のまちづくりや見沼田んぼの保全の取組等と連携したエリアマネジメントの検討・導入
- □ 多様な資金調達手法の検討・導入

2）周辺の地域資源とネットワーク強化

大宮公園周辺の文化資源や商店街等と連携した回遊性の向上を図るとともに、地域一体となったにぎわいづくりを進める。

＜主な取組＞

- □ 氷川神社や周辺の商店等と連携した取組（まちバル、マルシェ、フェス等）
- □ 公園を拠点に周辺の観光資源を結ぶ回遊ルート整備（マップ作成、サイン整備等）
- □ コミュニティサイクル等の活用など地域の回遊性向上
- □ 周辺駅や氷川神社等から公園に人々を誘導する取組（サイン整備等）

6.2 施策の実施ステップ

将来像の実現には長期間と予算を要する。予算制約のある中、優先順位を定めて整備を進める必要がある。将来像の実現に向けた取組について、その内容を短期、中期、長期に分類して整理したものを以下に示す。なお、将来像の実現に向けた具体的な手法や施設計画、スケジュール等は、グランドデザインでは定めず、今後、それぞれの取組を進める中で検討していく。

	短期的取組 早期に解決すべき現状の課題に対応するとともに、中期的取組に向けた検討や準備を行う	中期的取組 将来像の実現に向けた施策を実践する	長期的取組 時代の趨勢に応じた公園運営を継続する
ハード施策	**現状の課題への対応・将来像の実現に向けた下地づくり**	**将来像の実現に向けた取組**	**新たな課題への対応**
	●風格ある氷川の杜の保全・育成 ✧ 適切な維持管理による樹林の保全・育成 **●桜の再生、保全・育成** ✧ 適切な維持管理による桜の保全・育成 ✧ 適切な密度管理による見通し・明るさの確保 ✧ 老齢木の計画的な間伐・植替え **●アカマツ林の保全・育成** ✧ 適切な維持管理によるアカマツの保全・育成 **●親水空間の整備** ✧ 公園とその周辺の水循環の把握 ✧ 池の水質改善手法の検討・実施 **●四季折々の表情が楽しめる空間づくり** ✧ 季節を彩る樹木や花の植栽による景観づくり **●魅力的な景観づくり** ✧ 視点場の検討 ✧ 雑草やゴミ対策 **●時代の趨勢に応じたスポーツの場づくりの検討** ✧ 民間の資金やノウハウを活用した施設整備手法の調査・研究 ✧ 実施に向けた制度づくり ✧ 運動施設の利用状況、ニーズの調査 **●おもてなし機能の充実** ✧ エントランス機能の充実に向けた検討 **●サービス拠点の整備に向けた検討** ✧ 民間の資金やノウハウを活用した施設整備手法の調査・研究 ✧ 実施に向けた制度づくり **●誰もが安心して安全に楽しめる公園づくり** ✧ ユニバーサルデザインの推進 **●既存施設の適切な維持管理と利活用の継続** ✧ 中長期修繕計画に基づく公園施設の維持管理 ✧ 施設の劣化状況・安全性の適切な把握	**●風格ある氷川の杜、サクラ、アカマツ林の保全・育成** **●見沼田んぼに広がる空間づくり** **●氷川の杜と見沼田んぼをつなぐ生態系ネットワークの充実** **●生物多様性に配慮した公園づくり** **●親水空間の整備** **●四季折々の表情が楽しめる空間づくり** **●防災機能の強化** **●時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり** ✧ 民間の資金やノウハウを活用した運動施設の整備・運営 **●魅力的な景観づくり** ✧ 舟遊池を中心とする周辺の魅力的な景観づくり **●おもてなし機能の充実** **●サービス拠点の整備・運営** ✧ 民間の資金やノウハウを活用した便益施設の整備・運営 **●世界に誇る文化・アートの発信** **●誰もが安心して安全に楽しめる公園づくり** **●周辺の地域資源とネットワーク強化** ✧ サイン整備等	**▶景観の長期的な保全** **▶新技術を取り入れた維持管理の省力化・高度化** **▶公園周辺地域の状況や利用者ニーズの変化に対応する公園施設の整備** **▶時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり** **▶交通手段の変化に応じた園内移動の高度化、アクセス強化** **▶市民のライフスタイルの変化に応じた機能の導入**
ソフト施策	**試行・立ち上げ期**	**実践期**	
	●民との連携によるパークマネジメントの検討 ✧ 民の連携によるパークマネジメント手法の調査・研究 ✧ 公園運営への参画ニーズの把握 ✧ アイデアの試行（実証実験等） ✧ 多様な資金調達手法の調査・研究 ✧ 公園内におけるルールの適正化の検討 **●プロモーションの検討・試行** ✧ 情報発信方法の検討・試行 **●公園を核としたエリアマネジメントの検討** ✧ エリアマネジメントの導入可能性に関する調査・研究 **●魅力ある公園文化の創造に向けた検討** ✧ 導入すべきおもてなし機能の検討 ✧ 公園で実施可能なプログラム等の検討 ✧ 文化・アートのイベントに関する調査・研究 **●周辺の地域資源とのネットワークづくり** ✧ 駅等からのアクセス性向上に向けた取組の検討 ✧ 地域と連携した魅力アップに向けた取組の検討 ✧ 周辺の観光スポット等をめぐる回遊性向上に向けた取組の検討	**●民との連携によるパークマネジメントの実践** **●プロモーションの実践** **●公園を核としたエリアマネジメントの実践** **●魅力ある公園文化の創造** ✧ おもてなし機能の充実 ✧ 世界に誇る文化・アートの発信 ✧ 一日を通じて楽しめる公園づくりの実践 **●周辺の地域資源とのネットワーク強化**	

7. 将来像のイメージ

大宮公園の歴史や特性、考慮すべき事項等を総合的に勘案し、将来像のイメージを作成した。将来像のイメージは、土地利用の方向性を定めるゾーニング、ゾーンごとの施策、ゾーンごとのスケッチにより表現した。

7.1 将来像のイメージ

1) ゾーニングの基本的な考え方

大宮公園の将来像を踏まえ、土地利用の方向性を定めるべく、ゾーニングを定めた。その概要を以下に記す。

現在の第一公園の西側（陸上競技場兼双輪場、野球場、サッカー場を除いた部分）は、「氷川の社叢から広がる自然や歴史・伝統の継承」をテーマとして、氷川の社叢を継承する「氷川の杜」、明治・大正期の趣や歴史、芸術を感じられる「文化の森」、桜の保全・育成を進める「桜の丘」で構成した。

現在の第一公園の東側（陸上競技場兼双輪場、野球場、サッカー場がある部分）、第二公園の一部及び第三公園の一部は、「スポーツを核とした新たな公園文化の創造・発信」をテーマとすして、誰もがスポーツに親しめる「レクリエーションスポーツの広場」、スポーツを核としたにぎわいづくりを進める「スポーツの広場」、多世代が集い、遊び学べるオープンスペースとする「遊びの広場」で構成した。また、現在の第一公園と第二公園をつなぐ部分は、公園としての一体感を強化するため、現在の線的な整備ではなく、一定の広がりを持った面的な整備を目指していくこととした。

芝川沿いを中心とする第二公園の一部及び第三公園の一部は、「武蔵野の農の風景と生態系の保全・活用」をテーマとして、武蔵野の原風景と農の風景づくりを進める「武蔵野の里」、見沼田んぼの広がりが感じられる空間づくりを進める「見沼ビオトープ」で構成した。

2) スポーツ施設

「レクリエーションスポーツの広場」としたエリアには、陸上競技場兼双輪場、硬式野球場、サッカー場（ＮＡＣＫ５スタジアム大宮）がある。これらのスポーツ施設は、現在も継続的に使用されており、速やかに撤去する必要性もないことから、維持管理や必要な改修を実施し、引き続き活用していく。中長期的に見れば、今後、老朽化の進行や、人気の衰退による利用頻度の減少等により、施設としての役割を終える時点が到来することが考えられるが、その時のスポーツの流行を現時点において見通すのは困難である。また、求められる施設についても、観戦を主とするスタジアム型とは異なった姿となることも考えられる。このため、時代の趨勢に応じたスポーツの場と位置づけ、将来世代が自由に選択できるようなスペースとした。

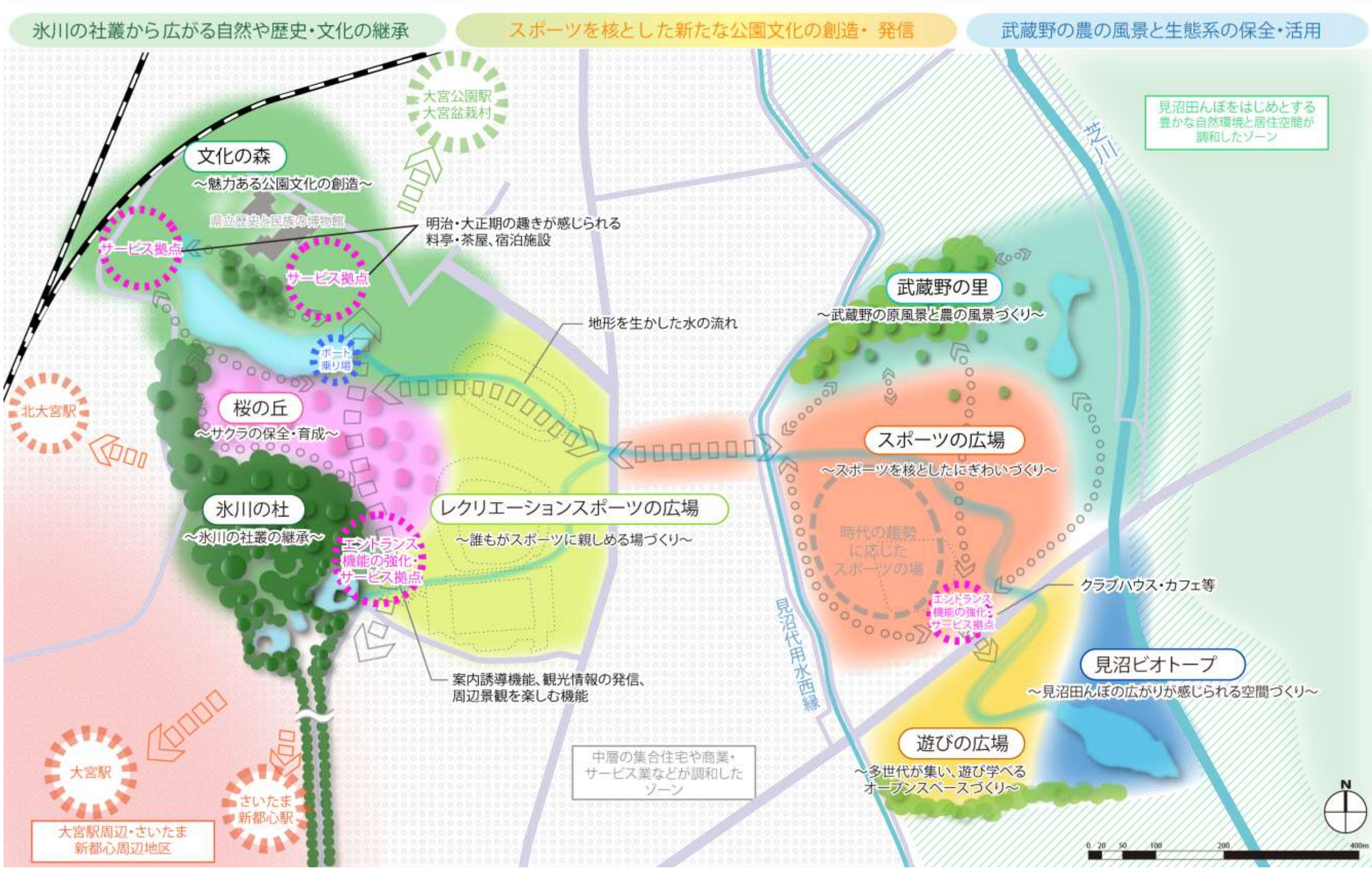
「スポーツの広場」としたエリアは、現在、駐車場や多目的広場、軟式野球場、テニスコート等として利用されている。第一公園の陸上競技場兼双輪場、硬式野球場、サッカー場は引き続き

活用していくことから、新たに大型のスポーツ施設を設けようとする場合、その用地として、土地利用の自由度が高いこのエリアとするのが妥当であり、時代の趨勢に応じたスポーツの場を位置づけた。

今後、財政面の制約がますます厳しくなるとみられる中、大規模なスポーツ施設を行政のみの手で整備・運営するのは困難である。このため、民間の資金やノウハウを活用した整備が前提となり、年間を通して安定的に収益を確保する必要がある。その機能は、競技エリアと観客席からなる従来型のスタジアムではなく、飲食、宿泊、教育、医療、福祉等、複合的なものになると考えられる。そうした商業利用と引き換えに公園使用料の形で、得られた収益を公園全体の運営に還元するしくみも必要である。

3) ゾーニング

将来像の実現に向けたゾーニングを以下に示す。なお、本イメージは、公園内の土地利用の方向性や備えるべき主な機能の概略を示すものであり、詳細な施設の設置場所、規模、諸元、デザイン等は、今後検討していく。



7.2 将来像の実現ステップ

将来像の実現に向けては、現状の施設配置や利用ニーズを踏まえつつ、段階的に取組を進める必要がある。将来像の実現ステップを示す。

●ステップ１（短期的取組）

樹木や花の保全や育成、現況のスポーツ施設の維持管理や利活用等、現状の課題に早期に対応するとともに、将来像の実現に向けて、民間の資金やノウハウを活用した施設整備手法の調査・研究等、下地づくりに取り組む。

●ステップ２（中期的取組）

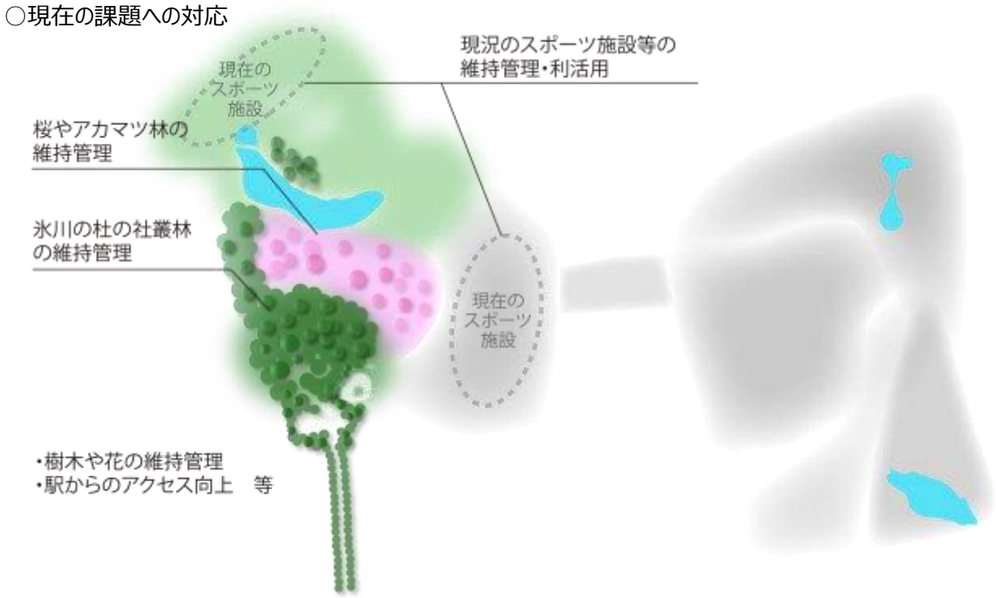
魅力的な景観づくりや親水空間の整備、サービス拠点の整備・運営、時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり等、将来像の実現に向けた施策を実践する。

●ステップ３（長期的取組）

景観の長期的な保全、時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり、市民のライフスタイルの変化に応じた機能の導入等、新たな課題への対応として、時代の趨勢に応じた公園運営を継続する。

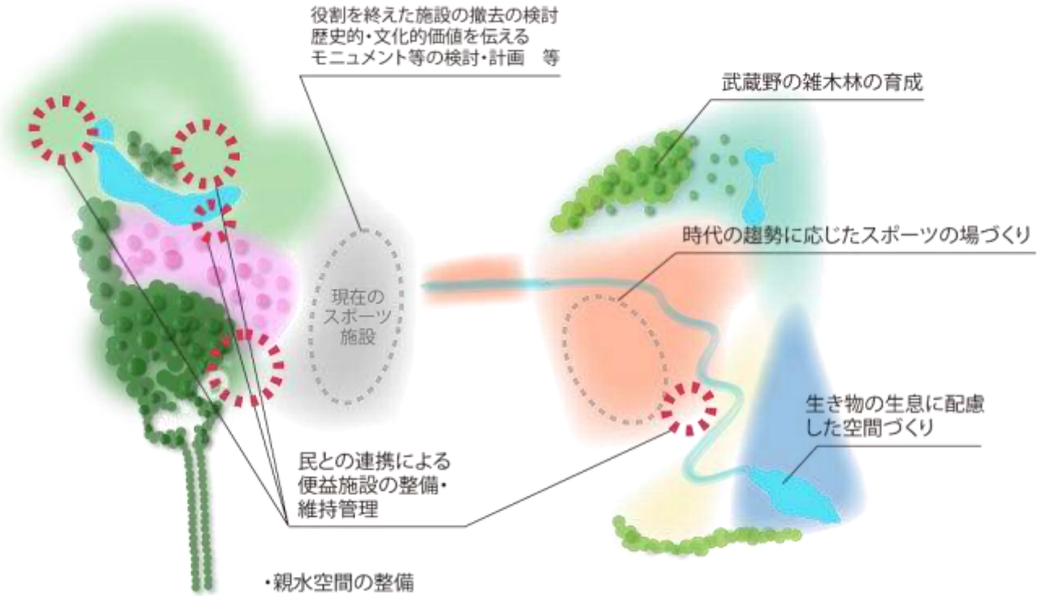
ステップ１（短期的取組）

○現在の課題への対応



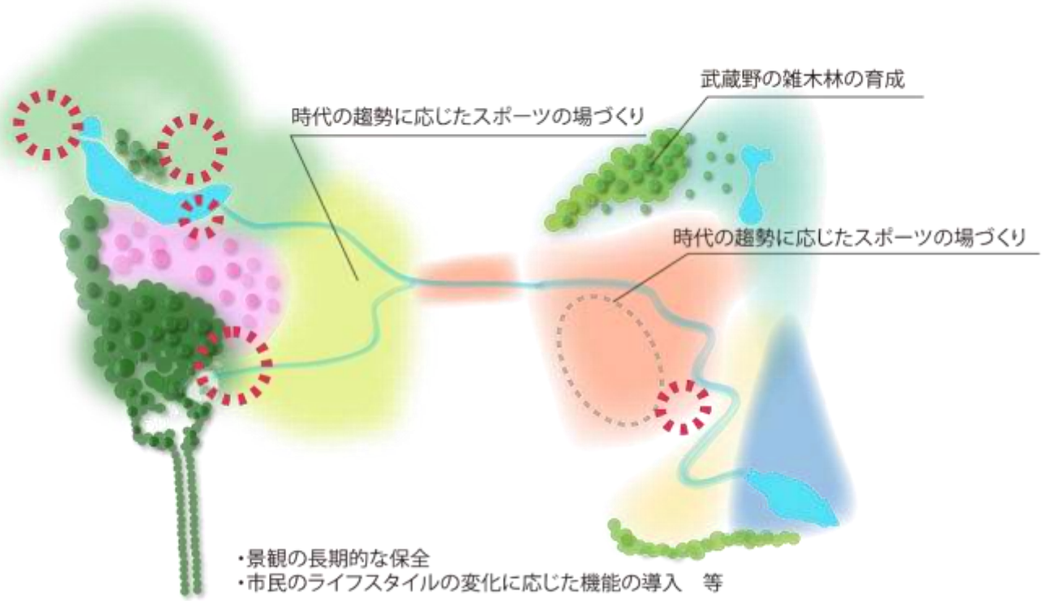
ステップ２（中期的取組）

○将来像の実現に向けた取組



ステップ３（長期的取組）

○新たな課題への対応



7.3 ゾーンごとの施策

●氷川の杜

氷川神社の社叢林の風格や荘厳さが感じられる空間をつくる。施設整備にあたっては、その外観は和のテイストとするなど周辺の景観との調和に配慮する。

<主な取組>

- 氷川神社の社叢林と一体となった景観づくり
- 適切な維持管理による樹林の保全・育成
- 氷川の杜の風格と調和するデザインによる公園施設整備
- エントランス機能の充実
- 公園の歴史を来園者に伝えるミュージアムの設置
- 氷川神社や北大宮駅方面からの来園者を誘導する取組（サイン整備等）

●文化の森

舟遊池の水面やアカマツをはじめとする木々、博物館の建物を生かした美しい景観をつくる。ボート遊び等、舟遊池の活用を進める。また、明治・大正期に文豪たちが愛した風流や趣が感じられる飲食や宿泊等のサービスを提供する施設を整備する。また、盆栽をはじめ芸術的な要素も取り入れ、魅力ある公園文化を発信する場とする。今あるスポーツ施設や便益施設は、老朽化が進行するなど、その役割を終えた時点で撤去する。

<主な取組>

- 舟遊池を生かした景観づくり、視点場の確保
- 博物館周辺の景観づくり、視点場の確保
- 適切な維持管理による樹林の保全・育成
- 親水空間の整備
- ライトアップ等による夜の景観の魅力アップ
- 民間の資金やノウハウを活用した便益施設の整備（カフェ、レストラン、宿泊施設、貸ボート等）
- 文化・アートの拠点となる教養施設の整備
- 文化・アートのイベント誘致
- 季節感を演出する樹木や花の植栽
- 大宮公園駅方面からの来園者を誘導する取組（サイン整備等）

●桜の丘

主にサクラやアカマツを中心とする明るく快適な広場空間をつくる。動物園、遊園地、売店等の今ある施設は、老朽化が進行し、更新が必要になった時点で、撤去あるいは移転を検討する。

<主な取組>

- 樹木の適切な密度管理による見通し・明るさの確保
- 老齢木の計画的な間伐、植え替え
- 桜守ボランティアと連携した桜の維持管理
- 適切な維持管理によるアカマツの保全・育成
- 舟遊池を生かした景観づくり、視点場の確保
- 適切な維持管理による樹木の保全・育成
- 親水空間の整備
- 氷川神社からの来園者を誘導する取組（サイン整備等）

●レクリエーションスポーツの広場

氷川の杜に隣接することから、自然や歴史、文化的な要素に配慮しつつ、多様な活動が可能で、誰もがスポーツに親しめる施設を設置する。今あるスポーツ施設は、引き続き活用するものとし、施設の老朽化が進んで安全な使用ができなくなる、利用者が減少して継続的な利用がなされなくなるなど、施設の役割を終える時点において、その後のあり方を利用者の意見を踏まえて検討し、時代の趨勢に応じたスポーツの場を整備する。また、それらスポーツ施設の歴史は、大宮公園全体の歴史においても重要であることから、その歴史的な価値を後世に伝える取組を行う。

<主な取組>

- 時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり

●スポーツの広場

スポーツを通じて人々が交流し、にぎわいのあふれる空間をつくる。民間の資金やノウハウを極力活用し、スポーツ施設やサービス拠点を整備する。その機能等は、民間事業者や利用者等の意見を踏まえて検討し、時代の趨勢に応じたものとする。また、収益の一部を公園運営に還元するしくみとする。

<主な取組>

- 時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり
- 民間の資金やノウハウを活用したスポーツ施設やサービス拠点（クラブハウス、カフェ等）の整備

●武蔵野の里

武蔵野の原風景を再現し、季節に応じた自然の変化や彩りを感じることのできる空間をつくる。また、里山の生活をイメージした農体験ができる場をつくる。

<主な取組>

- 武蔵野の雑木林の育成
- 季節感のある樹木や花の植栽による景観づくり
- 果樹の収穫など農体験ができるしくみづくり

●遊びの広場

幅広い世代の人々が安心して楽しめるオープンスペースと、子どもの創意工夫を引き出す遊び場をつくる。イベントやピクニック、マルシェ等のイベントを通じ、にぎわいを創出し、交流を促進する。遊戯施設や教養施設のほか、大規模災害にも対応できる休養施設を整備する。

<主な取組>

- 多様なイベントを開催できる広場の整備
- 遊戯施設、教養施設の整備
- 防災機能を有する休養施設の整備（大型休憩舎等）
- 市民団体が主体となったイベント等を開催できるしくみづくり
- レクリエーションプログラムの実施

●見沼ビオトープ

見沼の原風景を生かし、さらにその先の見沼田んぼへの広がりを感じられる空間をつくるとともに、都市部における貴重なウェットランドとして、生物多様性に配慮し、地域の生態系の保全を図る。また、県民が生き物に触れ合い、郷土の環境について学ぶことができる場とする。

<主な取組>

- 見沼田んぼの広がりが感じられる空間づくり（みぬまの沼とその周辺）
- 生態系に配慮したウェットランドの保全
- 環境学習や生きもの学習等のプログラムの実施

7.4 イメージスケッチ

代表的な場所におけるデザインイメージは以下のとおりである。

○氷川の杜のイメージ

○文化の森の舟遊池周辺のイメージ

○文化の森のイメージ

○文化の森の夜のイメージ

○桜の丘のイメージ

○桜の丘の夜のイメージ

○白鳥池周辺のイメージ

○武蔵野の里のイメージ

○見沼ビオトープのイメージ

○レクリエーションスポーツの広場／スポーツの広場のイメージ

※商業的スポーツ・コンプレックス

「時代の趨勢に応じたスポーツの場」を象徴する施設。スポーツ施設に加えて、クラブハウスやカフェ等の飲食施設、商業施設など、エンターテイメント・アミューズメント系の機能を兼ね備えた複合体を想定する。

整備にあたっては、民間事業者からのアイデアを公募するなど、民間の資金やノウハウを活用することを検討する。

なお、今あるスポーツ施設は、施設の老朽化が進んで安全な使用ができなくなる、利用者が減少して継続的な利用がなされなくなるなど、施設の役割を終える時点において、その後のあり方を利用者の意見を踏まえて検討し、時代の趨勢に応じたスポーツの場を整備する。

大宮公園グランドデザイン検討委員会　委員名簿

【検討委員会委員】（五十音順）

氏　　名	所　属　等（平成 31 年３月現在）	専　門　分　野
進士　五十八	福井県立大学　学長 東京農業大学名誉教授	ランドスケープ計画・公園史
今井　良治	株式会社　アイマックス　代表取締役	地域活性化
榊原　八朗	ランドスケープデザイン塾	ランドスケープデザイン
沢登　次彦	㈱リクルートライフスタイル じゃらんリサーチセンター　センター長	観光
建畠　晢	埼玉県立近代美術館　館長 （多摩美術大学　学長）	芸術
為末　大	一般社団法人アスリートソサエティ 代表理事	スポーツ
近田　玲子	株式会社　近田玲子デザイン事務所 代表取締役	照明デザイン
東角井　真臣	武蔵一宮氷川神社　権宮司	神事
堀尾　正明	株式会社　ノット・コミュニケーションズ	メディア
松本　邦義	一般社団法人埼玉県物産観光協会　会長	観光
望月　健介	さいたま市　都市局長	行政（まちづくり）
山田　香織	盆栽　清香園　５代目家元	盆栽・日本文化

【地元代表】

氏　　名	所　属　等（平成 31 年３月現在）	専　門　分　野
鈴木　茂	公益財団法人埼玉県サッカー協会　会長 公益財団法人さいたま市公園緑地協会　理事長	スポーツ
宮瀧　交二	大東文化大学文学部　教授	歴史・文化

大宮公園グランドデザインに寄せるメッセージ

●今井 良治 委員

まずは、本委員会に参加できたことに、心より感謝を申し上げます。

幼少期に大宮公園駅の駅前に住み、大宮公園、盆栽村はいつもの遊び場でした。設立期、繁栄期は「帝都一の理想郷」として観光面が強い公園、県民が増え「団体スポーツ施設」の公園となり、平成が終わる今、県民目線に立ち「これから」に合ったものにすることが必要。一方で、変わらないことして、武蔵一宮氷川神社の社叢としての公園であり、「何もない」から「豊かな公園がある都市」として、我々埼玉県民が誇れる公園が必要。そのために志金を集め、県、自治体、志民、民間、神社の参加のもと、安らぎ、ストレス解消のできる場づくりを目指して、公園からエリアマネジメントを展開し、地域を良くしていくムーブメントを起こし、第一、第二、第三公園が一体となって埼玉県民の野遊びパークになるようにみんなで生かしていきたいです。

●榊原 八朗 委員

公園は地域の活性化、緑化の環境保全、生物の多様性の保全、震災時の避難場所など公益的な役割を前提として、休養憩い、観賞、運動、多目的広場など多機能空間となる。それぞれの目的空間の機能美がデザイン上大切になるが 50 年、100 年先の維持管理面にも留意したデザインを心がけてほしい。また、観賞本意の和風の表現や、活動的な広場であっても機能性と美的が合致した機能美がデザインの基本である事にも留意してほしい。また、説明的思考のコンセプトを前提としたデザインは作品が陳腐になる恐れがあることも指摘したい。

公園内には、梅林、アジサイなどのゾーンがある。梅の枝ぶりを無視したただの賑わいを見せているだけの畑の梅林が主流となっているが、それをコピーしないことを望みたい。梅や紫陽花との組み合わせなどを考え自然をモチーフにして、花期を問わず 1 年中観賞に堪えるデザイン思考を持ってほしい。

公園に限らずデザインの本質は、機能美が絶対条件になるのではないかと思う。個々のゾーンに集中しないで公園全体が統一した景観になることを期待したい。

最後に、他の公園の事例に深入りしないよう大宮公園の独自性を打ち出してほしい。「木を見て森を見ず」にならないことを望む。

●沢登 次彦 委員

地域住民に愛される、武蔵野の地を感じられる、日本が誇れる都市公園であってほしい。

日本らしい、武蔵野らしい、都市公園は、これから観光目的の外国人が多く訪れ、この地を愛する外国人があふれることだと思います。そのために、水の流れが美しい公園、週末は公園ライフスタイルを満喫（夫婦テニス後に朝食カフェ、昼は子供たちと野遊び後に、昼食ピクニック、夜はホームチームを観戦など）、四季を感じる公園（花見、紅葉）、武蔵野の原風景を感じる公園を、小さな成功を積み重ねながら、一歩ずつ創ってください。

●為末 大 委員

50 年前、カラーテレビの普及率は 4.4%でした。今や、手の中に収まる端末でテレビはおろか世界中の情報にアクセスできます。スポーツでいえば、当時はサッカーもバスケもプロリーグはありませんでした。これからの 50 年で自動運転や完全キャッシュレスは間違いなく実現しますが、それ以上のことはおそらく誰にもわかりません。50 年後を想像しながらグランドデザインを描くのは大変でしたが、責任の重さを感じると同時に、未来を考える楽しさを味わいました。50 年前と変わっていないことは、人は人とのつながりによって幸福を感じるということではないかと思います。大宮公園にたくさんの人が訪れ、地域の人に愛される風景が地域の人によって作られることを願っています。

●近田 玲子 委員

夜も安心して歩ける公園として整備されることにより、大宮公園が市民の日々の暮らしを支える存在になると確信します。昼間仕事で忙しい人は早朝や夜のウォーキングやランニングなどにも広く利用することができるようになるでしょう。ペットとの散歩を楽しんだ人も公園のところどころに作られたカフェで乾いた喉を潤す。ナイトミュージアムが開催される期間は博物館だけでなく、氷川神社の薪能や、盆栽村で夜のイベントを楽しめる企画があるといいですね。日々の生活時間が広がることによって、氷川の森で育まれた文化はより豊かなものとなることでしょう。

●東角井 真臣 委員

大宮第一公園は二千年以上の間、氷川神社の境内でした。神様が坐す神聖な鎮守の森であり、見沼の水源の一つでした。現在は運動公園としての色合いが強く、その歴史は簡単に取り戻すことは出来ませんが、少しでも自然を感じられる、昔のような武蔵野の自然風景が残る自然公園として再整備して頂きたいです。水辺や広場に人が集い、木々に癒される。そんな空間が人間の生活には必要であり、公園の原点であるはずです。現実的には賑わいの為、競技場があっても仕方ないと考えますが、第一公園にサッカー場、野球場、競輪場の三つは多すぎます。どれか一つに絞り、聖と俗、非日常と日常を分け、県民が誇れるような魅力のある公園を目指してほしいです。

●堀尾 正明 委員

今、埼玉が全国的に注目されています。「翔んで埼玉」の映画のヒットをはじめ、「住みたい街ランキング」では、大宮４位、浦和８位とベスト 10 に２都市も入る快挙です。何よりも大宮駅は、12 路線の鉄道が乗り入れ、新幹線も６路線すべてが停車します。まさに東日本の玄関口であり、東京や横浜と肩を並べる人気実力を兼ね備えた都市に成長を続けています。大宮公園は、そんな「さいたま」を代表するステーションシンボルとなりうる公園にならなければなりません。つまり、東日本を代表する全く新しいコンセプトを持ったセントラルパークに生まれ変わるのが、このグランドデザイン策定の趣旨です。国内外の観光客もニューファミリーも老夫婦も若者も行きたくなるような公園づくりを目指してほしいです。

●松本 邦義 委員

東日本の玄関口・大宮駅の至近距離に位置する大宮公園は、埼玉県の顔となるべき緑地です。明治時代に本多静六博士が改良を手がけた由緒ある公園であるとともに、武蔵一ノ宮の歴史を今に引き継いでおり、氷川の杜に象徴される日本らしいたたずまいは、多くの外国の方々をも魅了することでしょう。これまでの歴史や伝統を大切にしながら、県民がスポーツを通して交流する場として新たな魅力が生まれ、大宮公園から埼玉全体の発展につながることを期待しています。

●望月 健介 委員

埼玉県を代表する公園の未来に向けて、その将来像や再整備の基本的な考え方を示しておくことはとても大切なことと考えます。大宮公園がそのグランドデザインを示すことで、将来の姿への議論が高まり、より多くの方々に見守られ、愛される都市空間として育まれていくことを期待しています。また、想定される未来は、その時代ごとに変化していきます。このグランドデザインが時代の変化に柔軟に対応していける計画として、永くその役割を果たしていくことを願っています。

●山田 香織 委員

委員としてお世話になりました盆栽清香園の山田香織です。今回改めて大宮公園や周辺環境を見直すことで、大きな資源が眠っていることを再確認しました。人口減少や少子高齢化が進む中ではありますが、埼玉県や委員の皆様、県民の皆様よりの幅広い見識に基づいた意見を集約し、近未来の大宮公園にあたっては明るく将来性の高い展望を元にした案がまとめられたのではないかと考えます。今後は埼玉県の都市計画と共に、そのシンボルとしての新しい大宮公園の創造へ向けて計画が進みますことを心よりお祈り申し上げます。最後になりましたが、この委員会を通じて多くのことを学ばせていただきました。進士委員長をはじめとする委員の皆様、埼玉県および関係各位の皆様へこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

●鈴木 茂 地元代表

大宮公園を未来に引き継いでいく上で、このグランドデザインの意義は大きいと思っています。策定にあたり、パブリックコメントを通じて、県民の皆様の率直なご意見を伺うこともできました。今後、このグランドデザインの実現に向けて、様々な取組が行われますが、予算だけでなく人事も含め、取組が長く継続されることを期待します。また、50 年後 100 年後に検証されることを意識して、今後、色々な取り組みや改修等を展開する際には、今回のグランドデザインの考え方に基づくことを明確にして進めていただきたいと思います。今回、グランドデザインの策定に携わることができ、非常に嬉しく誇りに思います。何より、地域の皆様に喜んで頂ければ幸いです。

●宮瀧 交二 地元代表

各分野からの委員の皆様、そして事務局の皆様と御一緒に意見交換を重ね、県民の皆様からのコメントも頂戴して、ここに大宮公園のグランドデザインがまとまりました。

今回の仕事は、新しく公園を企画する場合とは異なり、明治時代の開園以来の長い歴史を持つ大宮公園ですので、その歴史を大切に継承しながらも次世代の皆様にも利用していただける公園を考えるという、大変難しい挑戦でした。

先日、久喜市（旧菖蒲町）の菖蒲総合支所にある本多静六記念館を訪ねました。全国の公園の設計に生涯を捧げた本多は、地元・大宮公園の改修にも尽力しています。大正 10（1921）年から進められた「埼玉県氷川公園改良計画」の関係資料も展示されていました。大宮公園の開園に尽力した地元の皆様、そして本多をはじめとする多くの方々が少しずつ積み上げてきたケルンに、今回、私たちも一石を加えることが出来たとすれば光栄です。